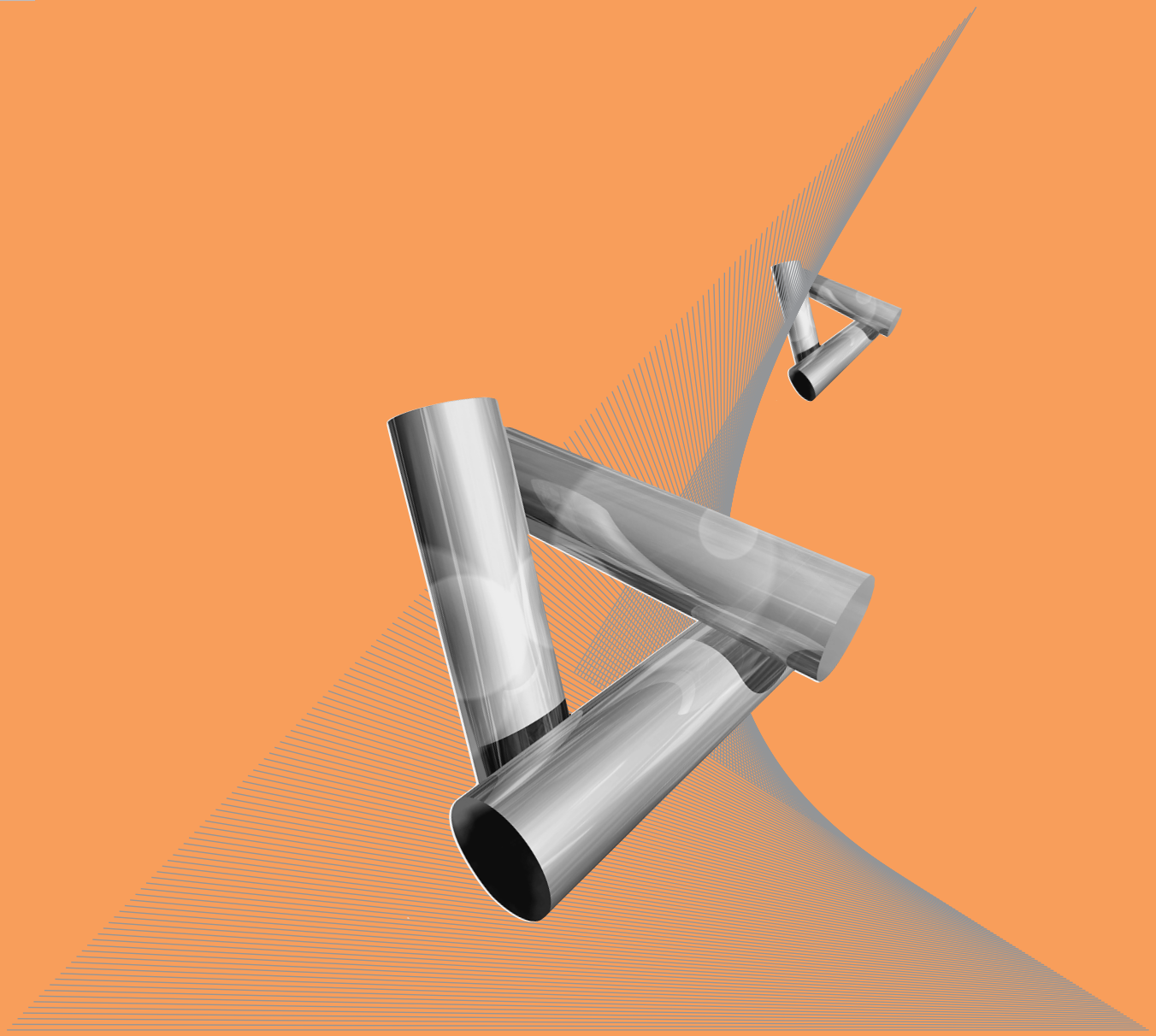
2006年度

シラバス
言語文化学科

外国語学部共通科目（2003年度以降入学生用）



獨協大学

言語文化学科　シラバス
【総合目次一覧】

◆ 【2003年度以降】入学生用

学則別表・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－1～2

授業科目目次・・・・・・・・・Ⅰ－3～6

外国語学部共通科目・・・P.92以降に掲載

◆ 【2002年度以前】入学生用

学則別表・・・・・・・・・・・・・Ⅱ－1

授業科目目次・・・・・・・・・Ⅱ－2～4

外国語学部共通科目・・・全学共通授業科目のシラバスに掲載

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、２００３年度以降入学生用の「言語文化学科」授業科目と「外国語学部共通科目」、２００２年度以前入学生用の「言語文化学科」授業科目シラバスです。

言語文化学科のシラバスは入学年度により、目次が２種類に分けられています。
＜2003年度以降入学生用＞と＜2002年度以前入学生用＞です。
入学年度により履修できる科目が異なるので、各自の入学年度に該当する目次を参照してください。

＊履修不可学科の表記

外：外国語学部　　経：経済学部　法：法学部

独：ドイツ語学科　　済：経済学科　律：法律学科
英：英語学科　　営：経営学科　国：国際関係法学科
仏：フランス語学科　　言：言語文化学科
言（＊１）：言語文化学科、スペイン語履修者
言（＊２）：言語文化学科、中国語履修者
全：言語文化学科以外

①適用年度*（カリキュラム）	②　科目名	③　担当者
④　講義目的、講義概要 【　春学期　】	⑤　授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥　テキスト、参考文献	⑦　評価方法	

①適用年度*（カリキュラム）	②　科目名	③　担当者
④　講義目的、講義概要 【　秋学期　】	⑤　授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥　テキスト、参考文献	⑦　評価方法	

☆上段は、春学期科目です。

①2002年度以前入学生専用科目のみ記載しています。
②原則として2003年度以降入学生用の科目名を記載しています。
カリキュラムよっては開講されない科目もありますので、
自分の適用年度が含まれているか必ず確認してください。

③　担当教員氏名
④　授業の目的や講義全体の説明、
　　学生への要望が記載してあります。
⑤　学期の授業計画についての欄です。
　　各週ごとに講義するテーマが
　　記載してあります。
⑥　授業で使用するテキストや
　　参考となる文献が記載してあります。
⑦　春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
　　秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に
　　成績評価が出ます。

☆下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

適用年度＝その科目が開講されるカリキュラム（入学年度による）

［注意］
○定員
科目の中には定員制のものがあります。
それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

学 則 別 表（2003年度以降入学者用）

科目郡	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	英語Ⅰ	1	4		
		英語Ⅱ	1	4		
		英語Ⅲ	1	4		
		英語Ⅳ	1	4		
		スペイン語Ⅰ	1		4＊	
		スペイン語Ⅱ	1		4＊	
		スペイン語Ⅲ	1		4＊	
		スペイン語Ⅳ	1		4＊	
		中国語Ⅰ	1		4＊	
		中国語Ⅱ	1		4＊	
		中国語Ⅲ	1		4＊	
		中国語Ⅳ	1		4＊	
	基礎講座	ボランティア論	2	2		
		現代世界論	2	2		
		コンピュータ基礎演習	2	2		
	概論	言語文化概論	2	2		
		比較思想概論	2		6	
		日本文化論a	2			
		日本文化論b	2			
		日本語研究概論a	2			
		日本語研究概論b	2			
		スペイン・ラテンアメリカ文化論a	2			
		スペイン・ラテンアメリカ文化論b	2			
		現代中国論a	2			
		現代中国論b	2			
学科共通科目	外国語	英語演習	2	4		
		スペイン語演習	2		4＊＊	
		中国語演習	2		4＊＊	
学科専門科目	日本研究	日本思想史a	2		8＊＊＊	
		日本思想史b	2			
		日本文化・芸能論a	2			
		日本文化・芸能論b	2			
		日本近現代史a	2			
		日本近現代史b	2			
		日本文学	2			
		日本経済論a	2			
		日本経済論b	2			
		日本政治外交史a	2			
		日本政治外交史b	2			
		日本研究特殊講義	2			
	日本語教育研究	日本語文法論a	2		8＊＊＊	
		日本語文法論b	2			
		日本語音声学a	2			
		日本語音声学b	2			
		日本語史a	2			
		日本語史b	2			
		対照言語学a	2			
		対照言語学b	2			
		日本語語彙・意味論	2			
		日本語教授法Ⅰa	2			
		日本語教授法Ⅰb	2			
		日本語教授法Ⅱ	2			
		日本語学a	2			
		日本語学b	2			
		日本語教育論	2			
		日本語教育特殊講義	2			
		日本語教育実習	2			

科目郡	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
学科専門科目	情報・コミュニケーション研究	自然言語処理a	2			20
		自然言語処理b	2			
		プログラミング論a	2			
		プログラミング論b	2			
		通訳翻訳論	2			
		異文化間コミュニケーション論a	2		4	
		異文化間コミュニケーション論b	2			
		マス・コミュニケーション論a	2			
		マス・コミュニケーション論b	2			
		認知科学	2			
		人間関係とカウンセリングa	2			
		人間関係とカウンセリングb	2			
		情報・コミュニケーション研究特殊講義	2			
	地域研究	地域文化論ⅰa	2		4	
		地域文化論ⅰb	2			
		地域文化論ⅱa	2			
		地域文化論ⅱb	2			
		地域文化論ⅲa	2			
		地域文化論ⅲb	2			
		地域文化論ⅳa	2			
		地域文化論ⅳb	2			
		地域経済論ⅰa	2			
		地域経済論ⅰb	2			
		地域経済論ⅱa	2			
		地域経済論ⅱb	2			
		地域経済論ⅲa	2			
		地域経済論ⅲb	2			
		比較社会論a	2			
		比較社会論b	2			
		地域社会文化論特殊講義	2			
		比較文化論特殊講義	2			
関連科目	国際交流	国際関係概論a	2		4	
		国際関係概論b	2			
		国際機構論a	2			
		国際機構論b	2			
		地球環境論a	2			
		地球環境論b	2			
		都市・地域計画論a	2			
		都市・地域計画論b	2			
		国際経済論a	2			
		国際経済論b	2			
		国際政治論a	2			
		国際政治論b	2			
		国際交流特殊講義	2			
外国語学部共通科目(別表Ⅰ-5)						2
全学共通授業科目(別表Ⅳ) 全学総合科目		ｶﾃｺﾞﾘｰⅠ		4		4
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅡ			8	
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅢ			4	
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅣ			4	
		ｶﾃｺﾞﾘｰⅤ				
全学共通授業科目(別表Ⅳ) 外国語科目		英語以外の外国語				
卒業論文			4			
演習			2	8		
卒業に必要な単位数合計				40	62	26
				128		

備考

(1)*および**は外国語部門の「スペイン語」,「中国語」から一言語を選択する。

(2)***は「日本研究」および「日本語教育研究」部門から合わせて8単位を修得する。

(3)卒業に必要な選択科目のうち、外国語学部共通科目の単位で満たすことができるのは6単位までとする。
また、全学共通授業科目の単位で満たすことができるのは12単位までとする。

(4)卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
ただし、このうち12単位までは教職課程授業科目とすることができる。なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

○本表は、2003年度入学者から適用する。

言語文化学科授業科目 （2003年度以降入学生用）

目次

学科基礎科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「外国語」部門								
		英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(RW)	各担当教員		1	1～	全	1
		英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(LS)	各担当教員		1	1～	全	2
		スペイン語Ⅰ(総合1)(総合2)	各担当教員		1	1	全	3･4
		スペイン語Ⅰ(入門)(会話)	各担当教員		1	1	全	5･6
		スペイン語Ⅱ(総合1)(総合2)	各担当教員		1	1	全	3･4
		スペイン語Ⅱ(基礎表現)(会話)	各担当教員		1	1	全	5･6
		スペイン語Ⅲ(総合)(講読)	各担当教員		1	2	全	7･8
		スペイン語Ⅲ(会話1)(会話2)	各担当教員		1	2	全	9･10
		スペイン語Ⅳ(総合)(講読)	各担当教員		1	2	全	7･8
		スペイン語Ⅳ(会話1)(会話2)	各担当教員		1	2	全	9･10
		中国語Ⅰ・Ⅱ(総合1)(総合2)	各担当教員		1	1	全	11
		中国語Ⅰ(入門)(会話)	各担当教員		1	1	全	12
		中国語Ⅱ(基礎表現)(会話)	各担当教員		1	1	全	12
		中国語Ⅲ･Ⅳ(総合)(講読)	各担当教員		1	2	全	13
		中国語Ⅲ･Ⅳ(会話1)(会話2)	各担当教員		1	2	全	14
「基礎講座」部門								
02188	春	ボランティア論	青柳　多恵子	月 4	2	1		15
08659	秋	現代世界論	佐藤　勘治	月 4	2	1	全	16
		コンピュータ基礎演習	各担当教員		2	1	全	※
※「コンピュータ基礎演習」のシラバスは、外国語学部共通科目「情報科学各論」の頁を参照する。								
「概論」部門								
02273	秋	言語文化概論	下川　浩	火 5	2	1		17
02271	春	比較思想概論	松丸　壽雄	火 5	2	1		18
01969	春	日本文化論a	飯島　一彦	木 1	2	1		19
01970	秋	日本文化論b	飯島　一彦	木 1	2	1		19
02050	春	日本語研究概論a	浅山　佳郎	金 5	2	1		20
02051	秋	日本語研究概論b	浅山　佳郎	金 5	2	1		20
02104	春	スペイン･ラテンアメリカ文化論a	佐藤　勘治	月 5	2	1		21
02105	秋	スペイン･ラテンアメリカ文化論b	佐藤　勘治	月 5	2	1		21
01905	春	現代中国論a	上村　幸治	木 1	2	1		22
01906	秋	現代中国論b	上村　幸治	木 1	2	1		22

学科共通科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
02093	春	英語演習(Discussion)	R. ジョーンズ	水 1	2	3	全	23
02094	秋	英語演習(Discussion)	R. ジョーンズ	水 1	2	3	全	23
11610	春	英語演習(ビジネス英語)	R. ジョーンズ	月 2	2	3	全	24
11611	秋	英語演習(ビジネス英語)	R. ジョーンズ	月 2	2	3	全	24
09103	春	英語演習(現代社会問題)	W. J. ベンフィールド	水 1	2	3	全	25
09104	秋	英語演習(現代社会問題)	W. J. ベンフィールド	水 1	2	3	全	25
10632	春	英語演習(ニュース英語)	W. J. ベンフィールド	木 1	2	3	全	26
10636	秋	英語演習(ニュース英語)	W. J. ベンフィールド	木 1	2	3	全	26
09780	春	英語演習(通訳･翻訳)	柴原　智幸	金 3	2	3	全	27
09781	秋	英語演習(通訳･翻訳)	柴原　智幸	金 3	2	3	全	27
10638	春	スペイン語演習	G. ヨシカワ	金 2	2	3	全	28
10641	秋	スペイン語演習	G. ヨシカワ	金 2	2	3	全	28
09414	春	スペイン語演習	J. I. ドメネク･アロンソ	火 2	2	3	全	29
09415	秋	スペイン語演習	J. I. ドメネク･アロンソ	火 2	2	3	全	29

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
09417	春	スペイン語演習	N. ウエチ	月 2	2	3	全	30
09416	秋	スペイン語演習	N. ウエチ	月 2	2	3	全	30
10639	春	スペイン語演習	兒島　峰	月 1	2	3	全	31
10642	秋	スペイン語演習	兒島　峰	月 1	2	3	全	31
10640	春	スペイン語演習	佐藤　勘治	水 2	2	3	全	32
10643	秋	スペイン語演習	佐藤　勘治	水 2	2	3	全	32
10645	春	中国語演習(中国文化と日本)	易　友人	月 3	2	3	全	33
10648	秋	中国語演習(中国文化と日本)	易　友人	月 3	2	3	全	33
09420	春	中国語演習(応用作文と講読)	武信　彰	木 2	2	3	全	34
09421	秋	中国語演習(応用作文と講読)	武信　彰	木 2	2	3	全	34
10644	春	中国語演習(通訳･翻訳)	張　亜紅	金 2	2	3	全	35
10647	秋	中国語演習(通訳･翻訳)	張　亜紅	金 2	2	3	全	35
09771	春	中国語演習(中国現代社会)	辻　康吾	水 3	2	3	全	36
09772	秋	中国語演習(中国現代社会)	辻　康吾	水 3	2	3	全	36
09422	春	中国語演習(ビジネス中国語)	吉田　桂子	木 3	2	3	全	37
09423	秋	中国語演習(ビジネス中国語)	吉田　桂子	木 3	2	3	全	37
10646	春	中国語演習(ビジネス中国語)	吉田　桂子	木 4	2	3	全	37
10649	秋	中国語演習(ビジネス中国語)	吉田　桂子	木 4	2	3	全	37

学科専門科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「日本研究」部門								
06317	春	日本思想史a	小澤　浩	木 1	2	2	全	38
06318	秋	日本思想史b	小澤　浩	木 1	2	2	全	38
06319	春	日本文化･芸能論a	飯島　一彦	火 2	2	2		39
06320	秋	日本文化･芸能論b	飯島　一彦	火 2	2	2		39
06479	春	日本近現代史a	丸浜　昭	火 5	2	2	全	40
06480	秋	日本近現代史b	丸浜　昭	火 5	2	2	全	40
02352	秋	日本文学	飯島　一彦	木 3	2	2		41
07116	春	日本経済論a	波形　昭一	火 5	2	2	経･法	42
07117	秋	日本経済論b	波形　昭一	火 5	2	2	経･法	42
06281	春	日本政治外交史a	福永　文夫	木 2	2	2	法	43
06282	秋	日本政治外交史b	福永　文夫	木 2	2	2	法	43
07119	春	日本研究特殊講義(能楽論)　※1	瀬尾　菊次	火 2	2	2	全	44
07120	秋	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像)※2	瀬尾　菊次	火 2	2	2	全	44

※1　日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像a)を履修した学生は履修できません。
※2　日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像b)を履修した学生は履修できません。

「日本語教育研究」部門								
06321	春	日本語文法論a	浅山　佳郎	火 1	2	2		45
06322	秋	日本語文法論b	浅山　佳郎	火 1	2	2		45
06323	春	日本語音声学a	城田　俊	水 1	2	2		46
06324	秋	日本語音声学b	城田　俊	水 1	2	2		46
06325	春	対照言語学a	中西　家栄子	金 3	2	2		47
06326	秋	対照言語学b	中西　家栄子	金 3	2	2		47
06327	春	日本語教授法Ⅰa	中西　家栄子	木 5	2	2		48
06328	秋	日本語教授法Ⅰb	中西　家栄子	木 5	2	2		48
02192	春	日本語教授法Ⅱ	浅山　佳郎	月 1	2	4		49
02080	春	日本語教授法Ⅱ	中西　家栄子	木 3	2	4		50
02036	春	日本語教授法Ⅱ	松浦　恵津子	金 2	2	4		51
01884	春	日本語学a	城田　俊	水 3	2	1	全	52
01885	秋	日本語学b	城田　俊	水 3	2	1	全	52
02163	秋	日本語教育論	中西　家栄子	火 4	2	1	全	53
02354	秋	日本語教育特殊講義(英文文献を読む)	中西　家栄子	木 3	2	2		54

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「情報・コミュニケーション研究」部門								
06329	春	自然言語処理a	呉　浩東	金 3	2	2		56
06330	秋	自然言語処理b	呉　浩東	金 3	2	2		56
07121	春	プログラミング論a(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉　浩東	月 2	2	2	全	57
07122	秋	プログラミング論b(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉　浩東	月 2	2	2	全	57
11818	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	加藤　尚吾	月 3	2	2	経	58
11819	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	加藤　尚吾	月 3	2	2	経	58
07123	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	高柳　敏子	金 2	2	2	経	59
07124	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	高柳　敏子	金 2	2	2	経	59
07127	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	立田　ルミ	火 2	2	2	経	60
07128	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	立田　ルミ	火 2	2	2	経	60
11815	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	森　園子	水 3	2	2	経	61
11816	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	森　園子	水 3	2	2	経	61
06331	春	異文化間コミュニケーション論a	田房　由起子	水 4	2	2	英	62
06332	秋	異文化間コミュニケーション論b	田房　由起子	水 4	2	2	英	62
11755	春	マスコミュニケーション論a	上村　幸治	木 2	2	2		63
11756	秋	マスコミュニケーション論b	上村　幸治	木 2	2	2		63
02355	春	認知科学	田口　雅徳	水 2	2	2		64
02356	秋	認知科学	田口　雅徳	水 2	2	2		64
06333	春	人間関係とカウンセリングa	瀧本　孝雄	金 1	2	2		65
06334	秋	人間関係とカウンセリングb	瀧本　孝雄	金 1	2	2		65
08476	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	J. スティベンソン	水 2	2	2	全	66
08477	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	J. スティベンソン	水 2	2	2	全	66
07131	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門)	浅山　佳郎	月 1	2	2		67
「地域研究」部門								
07132	春	地域文化論ⅰa(ラテンアメリカ)	佐藤　勘治	木 5	2	2		68
07133	秋	地域文化論ⅰb(ラテンアメリカ)	佐藤　勘治	木 5	2	2		68
07134	春	地域文化論ⅱa(スペイン)	二宮　哲	月 4	2	2		69
07135	秋	地域文化論ⅱb(スペイン)	二宮　哲	月 4	2	2		69
07136	春	地域文化論ⅲa(中国)	易　友人	木 4	2	2		70
07137	秋	地域文化論ⅲb(中国)	易　友人	木 4	2	2		70
06278	春	地域経済論ⅰa(ラテンアメリカ)	今井　圭子	火 3	2	2		71
06279	春	地域経済論ⅰb(ラテンアメリカ)	今井　圭子	火 4	2	2		71
07140	春	地域経済論ⅱa(アジア)	森　健	金 3	2	2	経	72
07141	秋	地域経済論ⅱb(アジア)	森　健	金 3	2	2	経	72
07144	春	地域経済論ⅲa(中国)	全　載旭	水 2	2	2	経	73
07145	秋	地域経済論ⅲb(中国)	全　載旭	水 2	2	2	経	73
07156	春	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史a)	G. ヨシカワ	火 5	2	2		74
07157	秋	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史b)	G. ヨシカワ	火 5	2	2		74
07148	春	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活a)	犬井　正	金 2	2	2		75
07149	秋	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活b)	犬井　正	金 2	2	2		75
11820	春	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究a)	浦部　浩之	火 4	2	2		76
11821	秋	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究b)	浦部　浩之	火 4	2	2		76
07154	春	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものa)	熊谷　哲也	木 4	2	2	全	77
07155	秋	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものb)	熊谷　哲也	木 4	2	2	全	77
07152	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーa)	佐藤　唯行	木 3	2	2		78
07153	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーb)	佐藤　唯行	木 3	2	2		78
07575	春	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a)	藤原　和彦	月 2	2	2		79
07576	秋	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b)	藤原　和彦	月 2	2	2		79
12355	春	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史a)	古川　堅治	木 5	2	2		80
07158	秋	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史b)	古川　堅治	木 5	2	2		80
07161	春	比較文化論特殊講義(日中文化比較論a)	易　友人	金 1	2	2		81
07162	秋	比較文化論特殊講義(日中文化比較論b)	易　友人	金 1	2	2		81
01822	春	比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	田房　由起子	水 3	2	2		82
01823	秋	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	田房　由起子	水 3	2	2		82

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
「国際交流」部門								
07366	春	国際関係概論a	浦部　浩之	火 1	2	2	英	83
07367	秋	国際関係概論b	浦部　浩之	火 1	2	2	英	83
06275	春	国際機構論a	鈴木　淳一	火 3	2	2	法	84
06276	秋	国際機構論b	鈴木　淳一	火 3	2	2	法	84
07163	春	地球環境論a(地理学)	犬井　正	月 2	2	1	全	85
07164	秋	地球環境論b(地理学)	犬井　正	月 2	2	1	全	85
09061	春	地球環境論a(植物学)	加藤　僖重	火 3	2	2		86
01941	秋	地球環境論b(植物学)	加藤　僖重	火 3	2	2		86
07166	春	地球環境論a(太陽系)	福井　尚生	金 4	2	2		87
07167	秋	地球環境論b(太陽系)	福井　尚生	金 4	2	2		87
07168	春	都市・地域計画論a	鈴木　隆	月 2	2	2		88
07169	秋	都市・地域計画論b	鈴木　隆	月 2	2	2		88
11823	春	国際経済論a	千代浦　昌道	金 2	2	2	経	89
11824	秋	国際経済論b	千代浦　昌道	金 2	2	2	経	89
07174	春	国際政治論a	星野　昭吉	月 2	2	2	法	90
07175	秋	国際政治論b	星野　昭吉	月 2	2	2	法	90
11753	春	国際交流特殊講義(蘭学を学んだ人たちa)	加藤　僖重	火 4	2	2		91
11754	秋	国際交流特殊講義(蘭学を学んだ人たちb)	加藤　僖重	火 4	2	2		91

卒業論文

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
		卒業論文(※)	各担当教員		4	4	全	92

※卒業論文の担当教員や空欄の項目は「言語文化学科授業時間割表」を参照する。

◆「外国語学部共通科目」は「言語文化学科授業科目」の後P92以降に掲載しています。
(目次も含む)

学 則 別 表（2002年度以前入学者用）

科目群	部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
基礎科目	外国語	英語Ⅰ	2	4		
		スペイン語Ⅰ	2		4	
		中国語Ⅰ	2			
		英語Ⅱ	2	4		
		スペイン語Ⅱ	2		4	
		中国語Ⅱ	2			
		英語Ⅲ	2	4		
		スペイン語Ⅲ	2		4	
		中国語Ⅲ	2			
		英語Ⅳ	2	4		
		スペイン語Ⅳ	2		4	
		中国語Ⅳ	2			
		英語Ⅴ	2	4		
		スペイン語Ⅴ	2		4	
		中国語Ⅴ	2			
	基礎講座	ボランティア論*	2	2		
		現代世界論*	2	2		
	概論	言語文化概論*	2	2		
		比較思想概論*	2	2		
		日本文化論	4			
		日本語研究概論	4		4	
		スペイン・ラテンアメリカ文化論	4			
		現代中国論	4			
専攻科目	日本研究	日本思想史	4			
		日本文化・芸能論	4			
		日本近現代史	4		8	
		日本経済論	4			
		日本政治外交史	4			
		日本研究特殊講義A	4			
		日本研究特殊講義B*	2			
	日本語教育研究	日本語文法論	4			
		日本語音声学	4			
		日本語史	4			
		対照言語学	4			
		日本語教授法Ⅰ	4			24
		日本語教授法Ⅱ*	2			
		日本語教育実習*	2			
	情報・コミュニケーション研究	現代思想	4			
		自然言語処理	4		4	
		異文化間コミュニケーション論	4			
		カウンセリング論	4			
		情報・コミュニケーション研究特殊講義A	4			
		情報・コミュニケーション研究特殊講義B	2			
	地域研究	地域文化論Ⅰ	4			
		地域文化論 ii	4			
		地域文化論 iii	4			
		地域文化論 iv	4		4	
		地域経済論Ⅰ	4			
		地域経済論 ii	4			
		地域経済論 iii	4			
		比較社会論	4			
		地域研究特殊講義A	4			
		地域研究特殊講義B*	2			
		比較文化論特殊講義A	4			
		比較文化論特殊講義B*	2			
関連科目	国際交流	国際関係概論	4			
		国際機構論	4			
		地球環境論	4		4	
		都市・地域計画論	4			
		国際経済論	4			
		国際政治論	4			
		国際交流研究特殊講義A	4			
		国際交流研究特殊講義B*	2			
外国語学部共通科目				28		
卒業論文			4			
演習			8	8		
卒業に必要な単位数合計				64	44	24
				132		

備考

(1) *は、4単位科目の1/2の授業時間数で完結する科目を表す。

(2) 卒業に必要な選択科目のうち、外国語学部共通科目の単位をもって満たすことができるのは8単位までとする。
ただし、保健体育部門の科目は含まない。

(3) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科の科目の単位をもって代用できる。

○ 本表は、1999年度入学者から適用する。

言語文化学科授業科目 （2002年度以前入学生用）

目次

学科基礎科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜	時	単位	開始学年	履修不可	ページ
「外国語」部門									
		スペイン語Ⅰ（総合）	各担当教員			2	1	全	3・4
		スペイン語Ⅰ（入門・会話）	各担当教員			2	1	全	5・6
		スペイン語Ⅱ（総合）	各担当教員			2	1	全	3・4
		スペイン語Ⅱ（基礎表現・会話）	各担当教員			2	1	全	5・6
		スペイン語Ⅲ（総合・講読）	各担当教員			2	2	全	7・8
		スペイン語Ⅲ（会話）	各担当教員			2	2	全	9・10
		スペイン語Ⅳ（総合・講読）	各担当教員			2	2	全	7・8
		スペイン語Ⅳ（会話）	各担当教員			2	2	全	9・10
		中国語Ⅰ・Ⅱ（総合）	各担当教員			2	1	全	11
		中国語Ⅰ（入門・会話）	各担当教員			2	1	全	12
		中国語Ⅱ（基礎表現・会話）	各担当教員			2	1	全	12
		中国語Ⅲ・Ⅳ（総合・講読）	各担当教員			2	2	全	13
		中国語Ⅲ・Ⅳ（会話）	各担当教員			2	2	全	14
12135	春	英語Ⅴ(総合英語)－ビジネス英語/Discussion	R. ジョーンズ	月2／水1		2	3	全	23・24
12136	秋	英語Ⅴ(総合英語)－ビジネス英語/Discussion	R. ジョーンズ	月2／水1		2	3	全	23・24
02117	春	英語Ⅴ(総合英語)－現代社会問題/ニュース英語	W. J. ベンフィールド	水1／木1		2	3	全	25・26
02118	秋	英語Ⅴ(総合英語)－現代社会問題/ニュース英語	W. J. ベンフィールド	水1／木1		2	3	全	25・26
01901	春	スペイン語Ⅴ(総合)	J. I. ドメネク・アロンソ／佐藤 勘治	火2／水2		2	3	全	29・32
01899	秋	スペイン語Ⅴ(総合)	J. I. ドメネク・アロンソ／佐藤 勘治	火2／水2		2	3	全	29・32
01898	春	スペイン語Ⅴ(総合)	兒島 峰／N. ウエチ	月1／月2		2	3	全	30・31
01900	秋	スペイン語Ⅴ(総合)	兒島 峰／N. ウエチ	月1／月2		2	3	全	30・31
10886	春	中国語Ⅴ(総合)－中国文化と日本／中国現代社会	易 友人／辻 康吾	月3／水3		2	3	全	33・36
09770	秋	中国語Ⅴ(総合)－中国文化と日本／中国現代社会	易 友人／辻 康吾	月3／水3		2	3	全	33・36
01902	春	中国語Ⅴ(総合)－応用作文と講読／通訳・翻訳	武信 彰／張 亜紅	木2／金2		2	3	全	34・35
01903	秋	中国語Ⅴ(総合)－応用作文と講読／通訳・翻訳	武信 彰／張 亜紅	木2／金2		2	3	全	34・35
02169	春	中国語Ⅴ(総合)－ビジネス中国語	吉田 桂子	木3／木4		2	3	全	37
02170	秋	中国語Ⅴ(総合)－ビジネス中国語	吉田 桂子	木3／木4		2	3	全	37
「基礎講座」部門									
02188	春	ボランティア論	青柳 多恵子	月	4	2	1		15
08659	秋	現代世界論	佐藤 勘治	月	4	2	1		16
「概論」部門									
02273	秋	言語文化概論	下川 浩	火	5	2	1		17
02271	春	比較思想概論	松丸 壽雄	火	5	2	1		18
01968	通年	日本文化論	飯島 一彦	木	1	4	1		19
02049	通年	日本語研究概論	浅山 佳郎	金	5	4	1		20
02103	通年	スペイン・ラテンアメリカ文化論	佐藤 勘治	月	5	4	1		21
01904	通年	現代中国論	上村 幸治	木	1	4	1		22

専攻科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時		単位数	開始学年	履修不可	ページ
「日本研究」部門									
02264	通年	日本思想史	小澤　浩	木	1	4	2		38
01947	通年	日本文化・芸能論	飯島　一彦	火	2	4	2		39
02189	通年	日本近現代史	丸浜　昭	火	5	4	2		40
07118	通年	日本経済論	波形　昭一	火	5	4	2	経・法	42
06280	通年	日本政治外交史	福永　文夫	木	2	4	2	法	43
02015	通年	日本研究特殊講義A(能楽論)	瀬尾　菊次	火	2	4	2	全	44
「日本語教育研究」部門									
02265	通年	日本語文法論	浅山　佳郎	火	1	4	2		45
02059	通年	日本語音声学	城田　俊	水	1	4	2		46
02246	通年	対照言語学	中西　家栄子	金	3	4	2		47
02190	通年	日本語教授法Ⅰ	中西　家栄子	木	5	4	2		48
02192	春	日本語教授法Ⅱ	浅山　佳郎	月	1	2	3		49
02080	春	日本語教授法Ⅱ	中西　家栄子	木	3	2	3		50
02036	春	日本語教授法Ⅱ	松浦　恵津子	金	2	2	3		51
「情報・コミュニケーション研究」部門									
02266	通年	現代思想	松丸　壽雄	金	4	4	2		55
02247	通年	自然言語処理	呉　浩東	金	3	4	2		56
02212	通年	異文化間コミュニケーション論	田房　由起子	水	4	4	2	英	62
02124	通年	カウンセリング論	瀧本　孝雄	金	1	4	2		65
02073	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉　浩東	月	2	4	2	全	57
11817	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	加藤　尚吾	月	3	4	2	経	58
07125	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	高柳　敏子	金	2	4	2	経	59
07126	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	立田　ルミ	火	2	4	2	経	60
11814	通年	情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	森　園子	水	3	4	2	経	61
08097	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	J. スティベンソン	水	2	2	2	全	66
08098	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	J. スティベンソン	水	2	2	2	全	66
02282	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義B(コーパス言語学入門)	浅山　佳郎	月	1	2	2		67
「地域研究」部門									
01939	通年	地域文化論i(ラテンアメリカ)	佐藤　勘治	木	5	4	2		68
01926	通年	地域文化論 ii (スペイン)	二宮　哲	月	4	4	2		69
01927	通年	地域文化論 iii (中国)	易　友人	木	4	4	2		70
06277	春	地域経済論i(ラテンアメリカ)	今井　圭子	火 3 火 4		4	2		71
07142	通年	地域経済論 ii (アジア)	森　健	金	3	4	2	経	72
07143	通年	地域経済論 iii (中国)	全　載旭	水	2	4	2	経	73
02219	通年	地域研究特殊講義A(ラテンアメリカの歴史)	G. ヨシカワ	火	5	4	2		74
02249	通年	地域研究特殊講義A(森林地域における風土と生活)	犬井　正	金	2	4	2		75
11822	通年	地域研究特殊講義A(現代ラテンアメリカ研究)	浦部　浩之	火	4	4	2		76
02191	通年	地域研究特殊講義A(東西文化を結ぶもの)	熊谷　哲也	木	4	4	2		77
02133	通年	地域研究特殊講義A(英語圏のエスニック・ヒストリー)	佐藤　唯行	木	3	4	2		78
07574	通年	地域研究特殊講義A(アラブ文化・芸術)	藤原　和彦	月	2	4	2		79
02196	通年	地域研究特殊講義A(地中海世界の歴史)	古川　堅治	木	5	4	2		80
01940	通年	比較文化論特殊講義A(日中文化比較論)	易　友人	金	1	4	2		81
07115	通年	比較文化論特殊講義A(グローバリゼーションと文化変容)	田房　由起子	水	3	4	2		82

関連科目

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時		単位数	開始学年	履修不可	ページ
「国際交流」部門									
07363	通年	国際関係概論	浦部　浩之	火	1	4	2	英	83
06274	通年	国際機構論	鈴木　淳一	火	3	4	2	法	84
07165	通年	地球環境論(地理学)	犬井　正	月	2	4	2	経・法	85
09062	通年	地球環境論(植物学)	加藤　僖重	火	3	4	2		86
01856	通年	地球環境論(太陽系)	福井　尚生	金	4	4	2		87
01876	通年	都市・地域計画論	鈴木　隆	月	2	4	2		88
11825	通年	国際経済論	千代浦　昌道	金	2	4	2	経	89
07173	通年	国際政治論	星野　昭吉	月	2	4	2	法	90
11752	通年	国際交流研究特殊講義A(蘭学を学んだ人たち)	加藤　僖重	火	4	4	2		91

卒業論文

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時		単位数	開始学年	履修不可	ページ
		卒業論文(※)	各担当教員			4	4	全	92

※卒業論文の担当教員や空欄の項目は「言語文化学科授業時間割表」を参照する。

◆「外国語学部共通科目」は『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています。

	英語 I, II, III, IV （RW）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際社会で活躍するために必要とされる実用的な英語のコミュニケーション能力を習得することを目標とする。 RW は(Reading & Writing)を示し、Introductory コースから Low Intermediate、Intermediate, High-intermediate、Advanced コースまで、日本人教員が担当する。Introductory から Advanced まで、一貫した学習内容で構成されている。コースは基本的な読解・作文能力を育成することに始まり、段階的により多様なトピック・高度な文を読んだり、書いたりする技能が習得できるように指導が行なわれる。週２回の授業を同じ教員が同一の教科書を使用し、Reading と Writing を連携させることで、最大限の効果をあげることを目標としている。 春学期はＴＯＥＩＣのスコアに基づいてクラス分けが行われ、それぞれのコースを履修することになる。秋学期は春学期の継続であるが、それぞれのコースの requirement を充足したうえで、その次のコースを履修することとなる。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
North Star – Reading & Writing 履修するコースによって Introductory, Low Intermediate, Intermediate, High-Intermediate, Advanced のいずれかの教科書になる。	平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や章テストが加わることがある。

	英語 I, II, III, IV （RW）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	英語 I, II, III, IV （LS）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際社会で活躍するために必要とされる実用的な英語のコミュニケーション能力を習得することを目標とする。 ＬＳは(Listening & Speaking)を示し、Introductory 及び Low Intermediate コースは日本人教員が Intermediate, High-intermediate 及び Advanced コースはネイティブスピーカーが担当する。Introductory から Advanced まで、一貫した学習内容で構成されている。コースは基本的な聴解・発話能力を育成することに始まり、段階的により多彩なトピック、高度な Listening & Speaking の技能が習得できるように設定されている。週２回の授業を同じ教員が同一の教科書を使用し、Listening と Reading を連携させることで、最大限の効果をあげることを目標としている。 春学期はＴＯＥＩＣのスコアに基づいてクラス分けが行われ、それぞれのコースを履修することになる。秋学期は春学期の継続であるが、それぞれのコースの requirement を充足したうえで、その次のコースを履修することとなる。	各担当教員が初回の授業で指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
North Star – Listening & Speaking 履修するコースによって Introductory, Low Intermediate, Intermediate, High-Intermediate, Advanced のいずれかの教科書になる。	平常点と試験で総合的に評価。担当者により課題や章テストが加わることがある。

	英語 I, II, III, IV （LS）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	スペイン語Ⅰ（総合１）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ(総合 1）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 Ⅰ(総合 2）とのペア授業である。	①　発音・アクセント ②　名詞の性・数、冠詞 ③　形容詞 ④　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥　ser, estar 動詞の使い方 ⑦　代名詞の用法 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する） また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（総合 1)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 II（総合 1）は、スペイン語 I（総合 1，2）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 II（総合 2）とのペア授業である。	①　動詞の活用 --- 再帰動詞 ②　動詞の活用 --- 直説法点過去 ③　動詞の活用 --- 直説法線過去 ④　点過去と線過去の違い ⑤　比較表現 ⑥　過去分詞と現在分詞 ⑦　動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ⑧　動詞の活用 --- 現在進行形 ⑨　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑩　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑪　命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ(総合2) はスペイン語 Ⅰ(総合1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅰ(総合 1) と 同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅰ（総合１）に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
スペイン語 Ⅰ(総合 1) に同じ。	03 年度以降のスペイン語 Ⅰ(総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。

	スペイン語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 II(総合 2) はスペイン語 II(総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 II（総合 1) と 同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語 II(総合 1) に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
スペイン語 II(総合 1) に同じ。	03 年度以降のスペイン語 II(総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。

	スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ(総合1，2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文の練習をする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ(総合1，2)の項目と同じであるが、(入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ(総合1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ(入門)の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、(総合 1，2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 II（総合1，2)の項目と同じであるが、(基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語II(総合1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語Ⅱ(総合 1，2)での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 II(総合 1，2)の項目と同じであるが、(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 II（総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ(会話）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話)では、スペイン語Ⅰ(総合 1，2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ(総合 1，2)の項目と同じであるが、(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ(総合 1，2）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 III（総合）の継続である。 総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 III（講読）の継続である。 講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話 1)(会話 2）のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。 （会話）の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。 （ＬＬ）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話 1)(会話 2）のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。 （会話）の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （ＬＬ）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、Ⅲに引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 III（会話 1） を参照。	各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 IV（会話 1） を参照。	各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	中国語Ⅰ（総合１）（総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
入門基礎のクラスです。必須基礎文法事項をおさえ，それを応用して簡単な文を作り，やさしい文章を読み，常套句を覚え，中国語がどのような言語であるかを身をもって学び取ることを目指します。 中国語Ⅰ（総合１）・中国語Ⅰ（総合２）は同じ日本人教員が週１回、２時限連続で担当します。 まず「ピンイン字母（中国語表音ローマ字)」のつづりの規則と中国語の発音を同時進行で学び，かつ簡略化された漢字（簡体字）にも慣れながら，必須基礎文法事項を逐次学んでいく。課文によって文章読解力を，練習によって作文力を養成する。	1　ガイダンス・“拼音字母”（中国語表音ローマ字）と発音練習 2　“拼音字母”（中国語表音ローマ字）と発音練習 3　第１課　～ 4 5 6　　～　第２課 7　中間テスト・第３課　～ 8 9 10 11 12　～　第６課
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：『教養初級中国語』郁文堂　（春学期・秋学期共通）	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。

	中国語Ⅱ（総合１）（総合２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の中国語Ⅰ（総合１）・中国語Ⅰ（総合２）に続く入門基礎のクラスです。必須基礎文法事項をおさえます。 中国語Ⅱ（総合１）・中国語Ⅱ（総合２）は同じ日本人教員が週１回、２時限連続で担当します。 必須基礎文法事項を逐次学んでいきながら，課文によって文章読解力を，練習によって作文力を養成し，初修外国語としての中国語学習の基盤を作る。	1　第７課　～ 2 3 4 5 6 7　中間テスト・第 12 課　～ 8 9 10 11 12　～　第 15 課
テキスト、参考文献	**評価方法**
中国語Ⅰ（総合１）・中国語Ⅰ（総合２）に同じ。	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。

	中国語 I（入門）（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
実用的な短い対話に通して話す力と聞く力を身につけるクラスです。発音の徹底指導と聞き取り訓練を中心に、「耳」と「口」を駆使し、ペアワークなどを通じて音声言語の運用能力を身に付けることを目指します。	1．　授業ガイダンス　第 1 課 2．　第 2 課 3．　第 3 課 4．　第 4 課 5．　第 5 課 6．　中間テストと復習 7．　第 6 課 8．　第 7 課 9．　第 8 課 １０．　第 9 課 １１．　第 10 課 １２．　総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：「 新版 例解中国語入門你問我答」白帝社	出席、積極性、中間テスト、期末テストにより評価します。

	中国語 II（基礎表現）（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引続き発音指導と聞き取り訓練を行うとともに、会話訓練を取入れ、基礎的な会話の完成を目指します。 授業には積極的参加し、大きな声を出すようにして下さい。教員はすべて標準的な中国語を話すネイティブスピーカーですので、正確な発音、適切な速度、豊かな表現力など吸収するよう努力して下さい。	1．春学期の復習　第 11 課 2．第 12 課 3．第 13 課 4．第 14 課 5．第 15 課 6．中間テストと復習 7．第 16 課 8．第 17 課 9．第 18 課 １０．　第 19 課 １１．　第 20 課 １２．　総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：「 新版 例解中国語入門你問我答」白帝社	出席、積極性、中間テスト、期末テストにより評価します。

	中国語Ⅲ（総合），（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
読解を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、それに肉付けをするかたちで、また中国語学的なセンスを磨くことにより、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。 読解は、もちろん「読む」ことだけを意味するわけではなく、同時に自分から「発信する」力にフィード・バックする学習でもあるので、語句や文型を自分のものとすべく繰り返し練習することが必要です。	教科書（第１篇　～　第５篇）を各クラス進度に合わせて学習します。 学科作成プリント教材の第一部（各種補語）を学習します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『青島の朝』白帝社 ＋ 学科作成プリント教材	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。

	中国語Ⅳ（総合），（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
読解を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、それに肉付けをするかたちで、また中国語学的なセンスを磨くことにより、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。 読解は、もちろん「読む」ことだけを意味するわけではなく、同時に自分から「発信する」力にフィード・バックする学習でもあるので、語句や文型を自分のものとすべく繰り返し練習することが必要です。	教科書（第６篇　～　第 10 篇）を各クラスの進度に合わせて学習します。 学科作成プリント教材の第二部（機能語と文型を中心に“重要文型 180”）を学習します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『青島の朝』白帝社 ＋ 学科作成プリント教材	授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。

	中国語Ⅲ（会話１）（会話２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語を母語とする同一教員が二時限連続で担当する授業である。授業は基本的に中国語のみで行われるが、必要に応じて日本語による説明も加える。 初級を一通り終えた学習者が、中国人に問いかけ、自由に話し合い、まとまった表現で自分の意志を伝えられるようになることを学習の目的とする。 春学期の主な到達目標は以下のとおりである。 ・　正しい発音と声調を身に付ける ・　日常生活に必要な語彙を増やす ・　成語の使い方に慣れる ・　やや遅めの明瞭に発音された中国語を一度で聞き取れる	春学期で第一課から第十課までを学ぶ。 通常授業（第１回～第５回、第７回～第１１回） ・　単語の小テスト ・　本文の音読とＱ＆Ａ ・　成語の用法に関する解説 ・　語句の活用（作文練習） ・　会話練習（ペアワーク、発音・声調指導） ・　参考文（ディクテーション） 中間試験（第６回、第１２回） ・　単語の総復習テスト ・　個別発話指導 期末試験は口頭試験とする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語実習コース』白水社	出席率、積極性、中間テスト、期末テストにより評価する。

	中国語Ⅳ（会話１）（会話２）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語を母語とする同一教員が二時限連続で担当する授業である。授業は中国語のみで行われる。 初級を一通り終えた学習者が、中国人に問いかけ、自由に話し合い、まとまった表現で自分の意志を伝えられるようになることを学習の目的とする。 秋学期の主な到達目標は以下のとおりである。 ・　語の適切な使用を学ぶ ・　文法的に破綻のない文章を構成する力をつける ・　意思を伝えるコミュニケーション能力を身に付ける ・　自然な速度の中国語を一度で聞き取れるようにする ・　ピンインのない中国語がほぼ正しく音読できる	秋学期で第十一課から第二十課までを学ぶ。 通常授業（第１回～第５回、第７回～第１１回） ・　単語の小テスト ・　本文の音読とＱ＆Ａ ・　成語の用法に関する解説 ・　語句の活用（作文練習） ・　会話練習（ペアワーク、発音・声調指導） ・　参考文（ディクテーション） ・　自由会話 中間試験（第６回、第１２回） ・　単語の総復習テスト ・　個別発話指導 期末試験は口頭試験とする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『中国語実習コース』白水社	出席率、積極性、中間テスト、期末テストにより評価する。

	ボランティア論	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ボランティアの諸様相について検証し、基本的ボランティアの組織（NPO・ NGO）活動を研究。 原義である自主性・無償性・社会性と歴史的意義と活動を現代社会の中で実施検証していくフィールドワークである。 歴史的・社会的変遷と関連事項（宗教・医学）の検索と解明。 産業社会と人間生活の方向性の接点を解明し、本来人間が保持している感情（優しさ・介護心・いたわり）の表現と活用の意義を理解し、社会的位置（小地域的・組織的・国際的）の研究と組織的な協力関係や団体のマネージメント能力の確保について領域とする。	1　4/10　青柳　講座ガイダンス・班編成 2　4/17　青柳 3　4/24　和田　（災害を想定して、自然の中での生活体験 4　5/ 1　学外講師１）（養護施設での 5　5/ 8　老人体験・介助研究（草加市） 6　5/15　学外講師２）手話 7　5/22　救急法１） 8　5/29　救急法２）心肺蘇生法 9　6/ 5　青柳　ＮＰＯ・ＮＧＯについて 10　6/ 12　パネルディスカッション１） 11　6/19　パネルディスカッション２） 12　6/26　青柳
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席重視・レポート提出

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（秋）	現代世界論	担当者	佐藤　勘治

講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近な具体的テーマに沿って受講生とともに深く考える場とし、専門研究への足がかりとなることを目的とする。

現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

講義概要

主に言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生に関わる諸問題がひとつの柱となっている。担当教員の専門分野は、哲学、言語学、歴史、社会学、地域研究、政治学、心理学などである。

第５回目では、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏を招いて、無国籍者の現状やその問題点を講演していただく予定である。また、第６回目では、ジャーナリスト工藤律子氏を招いて、子どもたちをとりまく状況について講演していただく。工藤氏は、メキシコを中心にしてストリートチルドレン支援運動をおこなっている。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。

評価方法

各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。

テキスト、参考文献

各担当者が指示する。
参考文献：
陳　天璽『無国籍』（新潮社）2005 年
工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)

授業計画

1　佐藤勘治：
総論　グローバル化の進展と多文化共生社会（9/25）

2　飯島一彦：
多文化社会としての日本（10/2）

3　佐藤勘治：
南北アメリカの「先住民」とその運動：先住民とはだれか？(10/9)

4　辻　康吾：
日中関係の原点（10/16）

5　陳　天璽（ゲストスピーカー）：国立民族学博物館助教授
「無国籍」を生きるとは　(10/23)

6　工藤律子（ゲストスピーカー）：ジャーナリスト
路上に生きる子どもたち　メキシコシティのストリートチルドレン（10/30）

7　小島優生：
現代韓国の教育事情（仮題）　(11/13)

8　浅山佳郎：
外国人が日本語を学ぶわけ（11/20）

9　有吉広介：
日・中・韓、儒教世界の現代親子関係　(11/27)

10　田口雅徳：
E-mail はコミュニケーションを豊かにするか？（12/4）

11　浦部浩之：
民主主義は世界に定着するか？　国際選挙監視団の一員として（12/11）

12　松丸壽雄：
現代世界と私たち（12/18）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	言語文化概論	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、あるいはそれらを表すものです。 言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ３．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ４．世界にはどのような言語があるのか？ ５．人種・語族・民族の概念の違いとは？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族紛争と少数民族野問題 １０．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １１．ウソとコトバの魔術 １２．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩『改訂版世界の民族地図』（作品社） 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？　ウソとコトバの魔術』（国際語学社）ほか	２回につき１度、内容に関して思ったことを書いたレポートをメール（添付ファイルは不可）で提出し、それを最後に自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

	比較思想概論	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
日本を含めた諸文化を支えてきた宗教思想・哲学・思想の比較を通して、諸地域文化の成立根拠の理解を得て、それをもとにして現代における諸文化の思想傾向を把握する力を育てることを目的とする。 世界の宗教を比較しながら、宗教とは何かを考えることになるだろう。	１．概要の解説 ２．宗教とは ３．東洋の宗教 ４．東洋の宗教 ５．中東の宗教 ６．中東の宗教 ７．アフリカの宗教 ８．西洋の宗教 ９．西洋の宗教 １０．宗教を比較する １１．実地の比較思想の試み １２．実地の比較思想の試み
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席状況とレポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本文化論 a	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「日本文化」と言うときの「日本」とは何か？「文化」とは何か？そのようなラディカルな問いかけをしなければ、現在の我々が直面する多文化・多言語環境を迎えた「日本」と向き合うことは出来ない。日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもないのである。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてまた、それは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 種々の相を複雑に展開する「日本文化」について、その歴史的複合重層性への理解を基本に様々な問題を概括的に考えていく。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の歴史的複合重層性 外からの刺激と内的発展 3　日本は閉鎖的な国か？ 海の道、人と人との行き来 4　「日本」という国号 もともと日本に「日本」はなかった 5　「日本」という地域 どこまでが「日本」か？ 6　文字の輸入の意味 漢字・片仮名・平仮名 7　ものの行き来、人の行き来 海外の日本、日本の海外 8　奈良東大寺正倉院とシルクロード 仏教・音楽・工芸 etc 9　律令の輸入 大君・天皇・国王・将軍・国家 10　「鎖国」とは何か 開かれていた国「日本」 11　明治維新の文化的意味付け 「和魂洋才」の意義 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

	日本文化論 b	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「日本文化」と言うときの「日本」とは何か？「文化」とは何か？そのようなラディカルな問いかけをしなければ、現在の我々が直面する多文化・多言語環境を迎えた「日本」と向き合うことは出来ない。日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもないのである。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてまた、それは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 種々の相を複雑に展開する「日本文化」について、その歴史的複合重層性への理解を基本に様々な問題を分野別に考えていく。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の歴史的複合重層性 外からの刺激と内的発展 3　日本人の振る舞い（習俗）① 正直・清潔・契約・権威 4　日本人の振る舞い（習俗）② 暮らし・死生観 5　宗教・思想 仏教・儒教・キリスト教 6　季節感 「四季」の嘘と作り上げた感受性 7　美術・工芸 「見る」と「作る」 8　建築 「屋根から作る」 9　数々の「道」 「芸能」という道々 10　文芸 恋とウタとモノガタリ 11　東と西、都と鄙 言葉・価値観・自然 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

	日本語研究概論 a	担当者	浅山佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教育を視野にいれて，ひろく日本語にかかわるさまざまな分野を概観することを目的とする。それぞれの分野をふかくあつかうことはできないが，ここから専攻科目としての各日本語学および日本語教育学関係の授業へつながるものであることをめざしたい。春学期では，日本語それ自体にかんする各研究分野から，基礎的でかつ典型的ないくつかのトピックをとりあげる。 テキストとしてはプリントをもちいるが，履修者には，必ず授業前にそれを読み，また関連する参考図書を呼んでくることをもとめる。授業は，教師からの発問にたいして，学習者が予習をもとに解答すること，またそれにたいして教師がコメントをくわえること，という形式ですすめる予定である。	1．ガイダンス 2．日本語の音声(1) 3．日本語の音声(2) 4．日本語の文字(1) 5．日本語の文字(2) 6．日本語の構造(1) 7．日本語の構造(2) 8．日本語の構造(3) 9．日本語の語彙と意味(1) 10. 日本語の語彙と意味(2) 11. 日本語の語彙と意味(3) 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントをもちいる。	試験の結果によって評価する。出席をくわえるばあいもある。

	日本語研究概論 b	担当者	浅山佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教育を視野にいれて，ひろく日本語にかかわるさまざまな分野を概観することを目的とする。 秋学期は，日本語をとりまく時間的空間的環境の問題および社会言語学とかかわる日本語の研究分野から，基礎的でかつ典型的ないくつかのトピックをとりあげる。前者は近年しばしば問題としてとりあげられる言語政策とかかわるものであり，後者は，最近の日本語教育のあらたな方法を理解するための基礎的な知識となる。 春学期同様，テキストとしてはプリントをもちいるが，履修者には，必ず授業前にそれを読み，また関連する参考図書を呼んでくることをもとめる。授業は，教師からの発問にたいして，学習者が予習をもとに解答すること，またそれにたいして教師がコメントをくわえること，という形式ですすめる予定である。	1. ガイダンス 2. 日本語の歴史(1) 3. 日本語の歴史(2) 4. 日本語の位置(1) 5. 日本語の位置(2) 6. 日本語の方言(1) 7. 日本語の方言(2) 8. 日本語の使用者(1) 9. 日本語の使用者(2) 10. 日本語のコミュニケーション(1) 11. 日本語のコミュニケーション(2) 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントをもちいる。	試験の結果によって評価する。出席をくわえるばあいもある。

	スペイン・ラテンアメリカ文化論 a	担当者	佐藤（勘）、浦部、二宮

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン・ラテンアメリカ文化論 a は、主にスペイン語圏に関する地域研究入門の授業である。スペイン語を学ぶものとして最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、担当者三名の輪講でおこない、各自の専門分野にそって、該当地域の歴史、地理、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。	スペイン・ラテンアメリカ入門 1　スペイン・ラテンアメリカの地域区分　（浦部） 2　世界のスペイン語　(二宮) 3　スペイン・ラテンアメリカ情報への接近法：先住民問題、政治動向など　（佐藤） 歴史：スペインとラテンアメリカの形成過程 4　スペインの歴史：イスラム・スペイン　(二宮) 5　スペインの歴史：カトリック両王の時代から１７世紀まで　(二宮) 6　ラテンアメリカの歴史：独立期まで　(佐藤) 地域的特徴 7　アンデス地域：自然環境とその利用　（浦部） 8　アマゾン地域：自然環境と伝統的生活形態　（浦部） 9　ラテンアメリカにおける現代の環境問題　（浦部） 10　中米・カリブ海地域： 世界史的役割と米国の「裏庭」化　(佐藤) 11　メキシコ：地理的特質と対米関係史　(佐藤) 12　スペイン：フランコ時代と現代　（二宮）
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が授業中に指示する。	授業への積極的参加および期末試験。 用語説明や簡単な記述式問題を担当者各自がそれぞれ数問程度用意する。

	スペイン・ラテンアメリカ文化論 b	担当者	佐藤（勘）、浦部、二宮

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン・ラテンアメリカ文化論 b では、個別の分野ごとにスペイン語圏の特質を考えてみたい。ここでも、基礎的知識の習得が第一の目的であるが、さらに現代的課題を提示し、履修生が各自の問題意識に沿ってスペイン語を用いて自ら調査研究に取り掛かる第一歩となることを期待している。 春学期同様、担当者三名の輪講とし、分野ごとに特定テーマあるいは基礎項目を設定して講義する。簡単な課題を与える場合がある。	スペイン研究 1　イベリア半島とスペイン語　(二宮) 2　フラメンコと闘牛というスペイン像　(二宮) 3　ピカソ　(二宮) 4　ヨーロッパとスペイン(語)　(二宮) ラテンアメリカ研究 5　ラテンアメリカの社会　(佐藤) 6　ラテンアメリカの文化　(佐藤) 7　ラテンアメリカの人種と民族　(佐藤) 8　米国のスペイン語系住民：ヒスパニック　(佐藤) 9　ラテンアメリカの政治　(浦部) 10　ラテンアメリカの経済　(浦部) 11　ラテンアメリカの国際関係　(浦部) 12　ラテンアメリカの地域統合　(浦部)
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が授業中に指示する。	授業への積極的参加および期末試験。 用語説明や簡単な記述式問題を担当者各自がそれぞれ数問程度用意する。

	現代中国論 a	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
０５年春の反日デモや靖国問題により、日本と中国の関係が緊張している。日中問題を通して、日本では中国に対する関心が高まっているように思われる。 中国はその一方で、目覚しい経済成長を続け、世界の大国になりつつある。アジアの巨大途上国の台頭を、２１世紀の世界史的事件だと指摘する声も出ている。日本との貿易が急増するなど、日本との経済交流も深まっている。 同時に、社会の混乱や環境破壊、軍拡に懸念を示す声も出てきた。発展する沿海工業地帯と貧しい内陸の農村地帯の経済格差も大きな問題になっている。 ナショナリズムの台頭は、反日デモや米国批判という形で火を噴いている。 現代の中国を多角的にとらえるため、アヘン戦争以来の歴史を踏まえ、政治や外交や経済、文化の実態を見ていこうと思う。その上で、これからの中国がどう発展していくのか、日本との関係がどう変化していくのかを考える。	1　現代中国の実像 2　アヘン戦争と近代史 3　日本との戦争 4　国共内戦と太平洋戦争 5　新中国の成立 6　反殖民地闘争 7　朝鮮戦争と冷戦 8　文化大革命 9　日中国交正常化 10　４人組逮捕と改革開放 11　天安門事件 12　前期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
［教材］小島晋治ら著『中国近現代史』岩波新書、上村幸治著『中国路地裏物語―市場経済の光と影』岩波新書、上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書	出席、レポート、試験による

	現代中国論 b	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	1　市場経済の導入 2　都市の単位の崩壊 3　農村の変貌 4　政治改革（民主化） 5　人口・環境問題 6　経済格差 7　階層社会の出現 8　台湾 9　チベットなど少数民族 10　国際関係 11　日中関係 12　後期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

	英語演習（Discussion）	担当者	R.Jones

講義目的、講義概要	授業計画
This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty advanced. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Gender Issues. 3 Attitudes towards women. 4 Caring for kids. 5 Japanese work ethics. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 50% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%

	英語演習（Discussion）	担当者	R.Jones

講義目的、講義概要	授業計画
This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty advanced. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change. Second Semester Topics 1 Why war? 2 Sexual Harassment 3 Environmental Issues. 4 Cloning 5 Issues in relationships. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 50% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%

	英語演習（ビジネス英語）	担当者	R.Jones

講義目的、講義概要	授業計画
This is an English course of studies which will help students understand some areas of international business in the modern world. Students who take their studies seriously will be able to better able to express themselves in a wide range of business situations. Occasionally, the class will also touch on areas of more general English, too. The level of this class is intermediate. Students who come to this class must be prepared to join in and speak. Try to speak in English as much as you can. Take the chances to improve your English vocabulary. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking!. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. It's up to you! Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Brands. 3 Travel. 4 Money. 5 Cultural awareness in business. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. YOU MUST TAKE RESPONSIBILITY FOR YOUR OWN LEARNING.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 50% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%

	英語演習（ビジネス英語）	担当者	R.Jones

講義目的、講義概要	授業計画
This is an English course of studies which will help students understand some areas of international business in the modern world. Students who take their studies seriously will be able to better able to express themselves in a wide range of business situations. Occasionally, the class will also touch on areas of more general English, too. The level of this class is intermediate. Students who come to this class must be prepared to join in and speak. Try to speak in English as much as you can. Take the chances to improve your English vocabulary. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking!. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. It's up to you! Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change. Second Semester Topics 1 Employment 2 Trade and Globalisation 3 Ethics at Work. 4 Advertising 5 Competition. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. YOU MUST TAKE RESPONSIBILITY FOR YOUR OWN LEARNING
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 50% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%

	英語演習（現代社会問題）	担当者	W. J. Benfield

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss a broad range of social issues. We will look at seven major topics over the course of a year, devoting three classes to each one. Topics will include subjects such as HIV/AIDS, immigration, religion, technology, employment and the role of women in society, though student preferences will also be taken into account. Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.	1. Course outline 2. Topic selection 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 3 (contd.) 12. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be supplied by teacher.	Attendance, participation in class activities, final presentations

	英語演習（現代社会問題）	担当者	W. J. Benfield

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss a broad range of social issues. We will look at seven major topics over the course of a year, devoting three classes to each one. Topics will include subjects such as HIV/AIDS, immigration, religion, technology, employment and the role of women in society, though student preferences will also be taken into account. Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.	1. Topic 4 2. Topic 4 (contd.) 3. Topic 4 (contd.) 4. Topic 5 5. Topic 5 (contd.) 6. Topic 5 (contd.) 7. Topic 6 8. Topic 6 (contd.) 9. Topic 6 (contd.) 10. Topic 7 11. Topic 7 (contd.) 12. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be supplied by teacher.	Attendance, participation in class activities, final presentations

	英語演習（ニュース英語）	担当者	W. J. Benfield

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) The choice of topics will be determined by what is happening currently in the world. Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events. The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole	1. Course outline. A look at some common media vocabulary. 2. Review of main news stories of recent months 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 3 (contd.) 12. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Supplied by teacher	Attendance, participation in class activities, final presentations

	英語演習（ニュース英語）	担当者	W. J. Benfield

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) The choice of topics will be determined by what is happening currently in the world. Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events. The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole	1. Topic 4 2. Topic 4 (contd.) 3. Topic 4 (contd.) 4. Topic 5 5. Topic 5 (contd.) 6. Topic 5 (contd.) 7. Topic 6 8. Topic 6 (contd.) 9. Topic 6 (contd.) 10. Topic 7 11. Topic 7 (contd.) 12. Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Supplied by teacher	Attendance, participation in class activities, final presentations

	英語演習(通訳・翻訳)	担当者	柴原　智幸

講義目的、講義概要	授業計画
目的 通訳演習・翻訳演習を通して、すでに身につけている英語の「知識」を深めるとともに、それを活用できる「スキル」へと高め、定着させること。 概要 通訳演習では、学生が日本語でスピーチを行い、それを学生が通訳した後に、講師が講評を加える。総合的なコミュニケーションに重点を置き、通訳者として実際に仕事をしていると常に想定して演習を行なう。 翻訳演習では、講師から出題された日本文を翻訳して、授業前に設定された締め切りまでに提出する。講師はそれを添削して返却し、授業で訳文の検討を行なう。 本講義を履修する学生は、ＴＯＥＩＣ730 点以上の英語力を持っていることが望ましいが、それに満たない場合でも学習意欲があれば問題はない。かなり demanding な講義なので、受身の学習態度では学習効果は薄い。積極的な授業参加が必要不可欠になることを念頭に置かれたい。	第１回目の授業で具体的なレベルをはかり、決定する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示する	授業への積極的参加（質・量）　50% 課題の評価　40% 出席率　10%

	英語演習(通訳・翻訳)	担当者	柴原　智幸

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	春学期に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	春学期に同じ

	スペイン語演習	担当者	G.ヨシカワ

講義目的、講義概要	授業計画
西洋において、文化は、ポスト・モダンと呼ばれる段階にある。これは、価値の相対化、または反転であり、エゴイズムと快楽主義を促進させ、すべての権威を無効にし、物質と技術を、ヒューマニティより重視するもので、環境破壊と責任回避を助長する。この授業は、スペイン語におけるコミュニケーションと知識の向上を目指す学生を対象にしており、ラテンアメリカ文化が、西洋のポスト・モダンが破壊しようとしている価値をどのように守っているのかを学ぶ。この授業は最終的に、受講学生が、スペイン語の会話能力と理解力を向上させるだけではなく、より明確で確固たる考えに基づいてこれからの人生に挑戦することができるようになることを目的としている。	＊　オリエンテーション：ラテンアメリカ文化概論 ＊　ポスト・モダンの性格と挑戦 ＊　家族の起源と機能 ＊　ジェンダーの役割：対立？補完？ ＊　今日の核家族の可能性と選択 ＊　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
購読プリント、提出物、発表のための台本等は、教員が準備する	授業中の活発な参加、すなわち、配布プリントをもとにしたグループごとのディスカッションにおける積極的な態度が望まれる。基本方針は、実際に話すことを通じて話すことを学び、実際に演技することによって身につける、というものである。 毎週の提出物が 60%程度、授業中の参加態度が 20%、授業で学習したテーマにしたがって行なわれるプレゼンテーション、または、小劇が 20%程度

	スペイン語演習	担当者	G.ヨシカワ

講義目的、講義概要	授業計画
西洋において、文化は、ポスト・モダンと呼ばれる段階にある。これは、価値の相対化、または反転であり、エゴイズムと快楽主義を促進させ、すべての権威を無効にし、物質と技術を、ヒューマニティより重視するもので、環境破壊と責任回避を助長する。この授業は、スペイン語におけるコミュニケーションと知識の向上を目指す学生を対象にしており、ラテンアメリカ文化が、西洋のポスト・モダンが破壊しようとしている価値をどのように守っているのかを学ぶ。この授業は最終的に、受講学生が、スペイン語の会話能力と理解力を向上させるだけではなく、より明確で確固たる考えに基づいてこれからの人生に挑戦することができるようになることを目的としている。	＊　隣人愛、無関心、復讐 ＊　感謝、許し、無頓着、無愛想 ＊　社会的責務とボランティア ＊　金銭：動機？目的？代償？ ＊　ストレス、忍耐、信心、希望 ＊　移住とナショナル・アイデンティティ ＊　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
購読プリント、提出物、発表のための台本等は、教員が準備する	授業中の活発な参加、すなわち、配布プリントをもとにしたグループごとのディスカッションにおける積極的な態度が望まれる。基本方針は、実際に話すことを通じて話すことを学び、実際に演技することによって身につける、というものである。 毎週の提出物が 60%程度、授業中の参加態度が 20%、授業で学習したテーマにしたがって行なわれるプレゼンテーション、または、小劇が 20%程度

	スペイン語演習	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ

講義目的、講義概要	授業計画
授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。	1～2、3 種類の過去形 3～4、Gustar 形動詞 5～6、命令法 7、未来形 8、比較級・最上級 9、進行形 10、再帰動詞 11～12、関係代名詞を使った文章
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。	試験　70%　授業中評価　30%

	スペイン語演習	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ

講義目的、講義概要	授業計画
授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。	1、指示形容詞 2、指示代名詞 3～4、条件文 5～6、過去完了形 7、復習 8～9、直接話法、間接話法 10～12、接続法
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。	試験　70%　授業中評価　30%

	スペイン語演習	担当者	Ｎ．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。	**Plan de estudio sujeto a cambios.** 1. Presentación del curso, evaluación de nivel. Encuesta sobre el plan de estudio. 2. México: información general. 3. El muralismo mexicano 4. Frida Kahlo 5. Intercambio de opiniones. 6. Cine hispano. 7. Cine español. 8. Debate sobre películas. 9. Argentina: información general. 10. Música argentina. 11. Jorge Luis Borges. Chile: Información general.
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室で配布	５0%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、残りの５0%を２回の試験によって行う。

	スペイン語演習	担当者	Ｎ．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。	**Plan de estudio sujeto a cambios.** 1. Chile: Pablo Neruda. 2. Análisis de sus poemas. 3. Isabel Allende. 4. Costa Rica: información general. 5. Parques Nacionales en Costa Rica. 6. Cuba: información general. 7. Che Guevara y Cuba 8. España: Información general. 9. Picasso, Dalí. 10. Gaudí 11. Presentación oral. Presentación oral.
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室で配布	５0%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題と口頭発表、残りの５0%を２回の試験によって行う。

	スペイン語演習	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
すでに文法を修了した学生を対象に、スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。 スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。 ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習を行ない、読解、会話、聞き取り能力の向上をはかる。	1．オリエンテーション 2. Eufemismos　（解説・購読） 3. Eufemismos　（応用練習） 4. ¿Dónde te gustaría vivir?　（購読） 5. ¿Dónde te gustaría vivir? （ディスカッション） 6. ¿Dónde te gustaría vivir?　（応用練習） 7. 小テスト 8. Ver noticias en la televisión　（聞き取り） 9. Ver noticias en la televisión　（応用練習） 10. ¡Vamos a cantar! 11. 表現等の復習 12. テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。	授業への参加態度、小テスト、学期末試験を総合的に評価する。

	スペイン語演習	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。 スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。 ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習、および、グループ討論を行ない、読解、会話、聞き取り、および理解力を高めることを、本講義の目的としている。	1．オリエンテーション 2. En el viaje　（イントロダクション） 3. En el viaje　（グループ討論） 4. En el viaje　（報告発表） 5. La religión azteca（購読） 6. La religión azteca（ディスカッション） 7. La religión azteca（応用練習） 8. 復習・小テスト 9. Fiestas navideñas（聞き取り） 10. Fiestas navideñas（購読） 11. Fiestas navideñas（ディスカッション） 12. テスト（口頭発表）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。	授業への参加態度、小テスト、グループ討論、報告発表、および学期末試験を総合的に評価する。

	スペイン語演習	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
評論などを教材にして、翻訳の訓練をおこなうことにしたい。多様なスペイン語の文章に触れ、重要表現を確実に抑え語嚢を増強することで、スペイン語を通した正確な情報収集能力の養成を目的とする。 履修学生は、A4版一枚程度の論説、記事を翻訳し、担当者に提出することを二週に1度、計6回繰り返す。 授業では、語嚢、表現法のほか、論説・記事の内容について、背景知識で重要なものを説明する。 小テストを行い、スペイン語力の定着をはかることにする。 計六回の繰り返しのうち、一回は文字教材ではなく、ドキュメンタリーのナレーションを教材にしたい。聞き取りとその翻訳を上記と同様に課題とする。 最後に自分で選んだ評論や記事（インターネット上にあるものでもかまわない）、あるいは、担当者が用意したものを翻訳して提出してもらう。	二週１セットの前半： 前回部分の小テスト（一回目はない） 教材の配布 時間をとって一部翻訳作業を行わせる。 わからなかった部分について、グループに分けて履修生間で検討する。 語彙で注意したいものを指摘する。 表現法で注意したいものを指摘する。 内容の理解に必要な背景知識を学習する。 質問を受ける 土曜日夜までにメールで担当者に送信 二週１セットの後半： 全文解説 模範解答の提示 語彙、表現法のポイント整理 解説の補い 小作文
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業でプリントを渡す。	5回の小テスト、最後の翻訳評価の総計をもって評価とする。

	スペイン語演習	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
評論などを教材にして、翻訳の訓練をおこなうことにしたい。多様なスペイン語の文章に触れ、重要表現を確実に抑え語嚢を増強することで、スペイン語を通した正確な情報収集能力の養成を目的とする。 履修学生は、A4版一枚程度の論説、記事を翻訳し、担当者に提出することを二週に1度、計6回繰り返す。 授業では、語嚢、表現法のほか、論説・記事の内容について、背景知識で重要なものを説明する。 小テストを行い、スペイン語力の定着をはかることにする。 計六回の繰り返しのうち、一回は文字教材ではなく、ドキュメンタリーのナレーションを教材にしたい。聞き取りとその翻訳を上記と同様に課題とする。 最後に自分で選んだ評論や記事（インターネット上にあるものでもかまわない）、あるいは、担当者が用意したものを翻訳して提出してもらう。	二週１セットの前半： 前回部分の小テスト（一回目はない） 教材の配布 時間をとって一部翻訳作業を行わせる。 わからなかった部分について、グループに分けて履修生間で検討する。 語彙で注意したいものを指摘する。 表現法で注意したいものを指摘する。 内容の理解に必要な背景知識を学習する。 質問を受ける 土曜日夜までにメールで担当者に送信 二週１セットの後半： 全文解説 模範解答の提示 語彙、表現法のポイント整理 解説の補い 小作文
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業でプリントを渡す。	5回の小テスト、最後の翻訳評価の総計をもって評価とする。

	中国語演習(中国文化と日本)	担当者	易　友人

講義目的、講義概要	授業計画
中国語学習において発音、基本文型の習得が重要であることはいうまでもない。だが、この段階の教材は発音あるいは基本文型学習のためのものであり、現実に使用されている中国語とは質的に異なる場合が多い。教材では比較的に明快、あるいは短文であったものが、新聞、雑誌、公文章、書簡、文学作品などで実際に使われている中国語はその語彙、文体など実に多様である。このレベルになると学習者個々の努力と習熟が必要となり、特に長文を読みこなす力を養わなくてはならない。その一助として本科目では中国人が通常使用する文章を大量に読むことによって、多数の語彙文型に成れ親しむ事を目的としている。また一目瞭然の教材中国語に対して内容のある中国語長文を読むことによって中国文化、中国的発想，表現法に対する理解を深めたい。	1、 发教材、介绍教材和学习方 2、 从“火”说起 3、 从“屡战屡胜”说起 4、 从“吃食堂”说起 5、 “德才兼备”为什么不说“才德兼备” 6、 民以食为天 7、男大当婚
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席、レポート、試験による

	中国語演習(中国文化と日本)	担当者	易　友人

講義目的、講義概要	授業計画
中国語学習において発音、基本文型の習得が重要であることはいうまでもない。だが、この段階の教材は発音あるいは基本文型学習のためのものであり、現実に使用されている中国語とは質的に異なる場合が多い。教材では比較的に明快、あるいは短文であったものが、新聞、雑誌、公文章、書簡、文学作品などで実際に使われている中国語はその語彙、文体など実に多様である。このレベルになると学習者個々の努力と習熟が必要となり、特に長文を読みこなす力を養わなくてはならない。その一助として本科目では中国人が通常使用する文章を大量に読むことによって、多数の語彙文型に成れ親しむ事を目的としている。また一目瞭然の教材中国語に対して内容のある中国語長文を読むことによって中国文化、中国的発想，表現法に対する理解を深めたい。	8、 冠、冕、巾、帻、帽 9、“吃饭了吗?”和“你去哪儿?” 10、从“哪里、哪里”说起 11、从“同志”、“师傅”到“先生”、“小姐” 12、摇头不算点头算 13、从“汉委奴国王”印说起 14、和字 15、“切符”与“切手”
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席、レポート、試験による

	中国語演習（応用作文と講読）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
通俗的な小説を読むことにより，基礎的な読解力を養成するとともに，同時に自らの言葉として発信する練習ともする。 前者においては，書面語と口語の並存，蓄積される膨大な常套表現，紛れ込む地域差等々，その読解にあたって必要とされる準備的知識等々に留意し，後者については，単文だけではなく談話単位の作文力の養成を目指すものである。	中国の通俗的な小説を要約改編したものを受講生の発表を通して読み進めていく。 注意すべき語彙・文法事項，心得ておくべき文化背景を取り上げ，かつ各章テーマを絞って工具書（辞典類・事典類等参考にする補助的書物・資料）を紹介し，以って受講生の読解力を養成する。 （『借妻赴宴』）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	出席、発表、試験による。

	中国語演習（応用作文と講読）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
通俗的な小説を読むことにより，基礎的な読解力を養成するとともに，同時に自らの言葉として発信する練習ともする。 前者においては，書面語と口語の並存，蓄積される膨大な常套表現，紛れ込む地域差等々，その読解にあたって必要とされる準備的知識等々に留意し，後者については，単文だけではなく談話単位の作文力の養成を目指すものである。	中国の通俗的な小説を要約改編したものを受講生の発表を通して読み進めていく。 注意すべき語彙・文法事項，心得ておくべき文化背景を取り上げ，かつ各章テーマを絞って工具書（辞典類・事典類等参考にする補助的書物・資料）を紹介し，以って受講生の読解力を養成する。 （『愛爾蘭咖啡』）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	出席、発表、試験による。

	中国語演習(通訳・翻訳)	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では中国語から日本語への翻訳の実践を行います。単なる解釈ではない、仕事にも生かせる翻訳の方法を学ぶクラスです。 講師からの指導に加え、翻訳の課題を毎週こなすことで実践的な翻訳の力をつけていくことを目的とします。 授業中は全員中国語で話すことを心がけ、リスニングとスピーキングの練習も合わせて行えるようになっています。	1、ガイダンス、「北京の PHS」(1) 2、「北京の PHS」(2) 3、「ジャイアント・パンダ絶滅の危機」(1) 4、「ジャイアント・パンダ絶滅の危機」(2) 5、「国力の充実と留学生」(1) 6、「国力の充実と留学生」(2) 7、「現代日本女性の美の基準」(1) 8、「現代日本女性の美の基準」(2) 9、「高収入の会議通訳者」 10、　「ホワイトカラーと出社恐怖症」(1) 11、　「ホワイトカラーと出社恐怖症」(2) 12、　「頭脳労働者の選ぶ食品」
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎週授業の最後に次回の課題を配布します。	事前準備、翻訳の質と出席率で評価します。

	中国語演習(通訳・翻訳)	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では基本的な会話文による日本語から中国語への作文と通訳の実践を行います。 毎週、中国語作文の課題を出しますので、受講者は中国語に翻訳してから授業に出席してください。 授業の前半で、音声による宿題の答え合わせと解説を行い、さらに同じ題材で通訳の練習をしていきます。 以上のように作文・聞き取り・訳出を組み合わせた授業になります。	1、ガイダンス、通訳・翻訳とは如何なる作業か？ 2、課題 1 3、課題 2 4、課題 3 5、課題 4 6、課題 5 7、課題 6 8、課題 7 9、課題 8 10、　課題 9 11、　課題 10 12、　学期のまとめ ＊課題は全て日本の社会や文化に関わる日常的な内容です。基本的に、同じテーマ（インターネット、買い物、教育など）について、書き言葉と話言葉（会話）の両方で学んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎週授業の最後に次回の課題を配布します。	宿題、授業中の出来具合、出席率で評価します。

	中国語演習(中国現代社会)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
中国語基礎学習を終了したものにとって教科書的文章ではなく、実際に中国人が読み書きしている中国語に親しむ必要がある。中国ご原文資料を可能な限り多く読むことで、いわば中国語に対する「感」を養い、多くの語彙に習熟することが極めて重要である。この科目では当面の焦点となっている日中関係の中で、中国人の日本観に関する長文資料を読み、現代中国語の文体、表現に親しみ、かつ日中双方の文化、人物、歴史について知識、理解を深める。また正しい日本語に翻訳することで、翻訳能力を高めたい。 長文講読は、構文の認識、語彙検索など、最初は困難が感じられるが、これまでの授業経験からみて、比較的に短期間(前期中)に内容をすばやく理解し、かつ文章全体の意味を把握できるようになる。そこから実際の応用に耐える語学力が急速に向上することになる。これを目標に長文講読と取り組む予定である。 なおこの科目の授業には第一回から必ず辞書を持参すること。	第一回　教材の紹介、予習方法、参考文献紹介。 第二回　講読開始と、正確な日本語表現の学習 第三回～第十回　　同 第十一～第十二回　翻訳文の整理、校正など。
テキスト、参考文献	**評価方法**
張宏渕『难以琢磨的国度』 (教材は第一回授業で配布)	平常・出席点と期末筆記試験成績で総合評価。

	中国語演習(中国現代社会)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
(秋)学期も前期と同一趣旨で長文講読を続ける。	同
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は第一回授業で配布する	同

	中国語演習（ビジネス中国語）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
中国経済の急成長は素材、ｴﾈﾙｷﾞｰの需要を膨らませ、現在、世界の市場を揺さぶる程の影響力を持つに至りました。こうした中国経済のグローバル化を背景に、現在、中国語を自由に操れるﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ（ﾋﾞｼﾞﾈｽｳｰﾏﾝ）の育成が急速に求められています。 本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を修得すると共に、ビジネス業務をスムーズに遂行するための正確且つ的確な「契約書」や「仕様書」等の「ビジネス文書」の書き方を学習します。併せて、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識を理解することを目指します。 実際の授業では、毎回「ビジネス文書」を作成すると同時に、全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めていきます。	1　日中貿易概説/商談の基礎 アポイントの取得（一） 中国語のビジネスレター 2　業務取引の申し込み/アポイントの取得（二） 3　引き合いに関する商談（一）/見積書の送付依頼 4　引き合いに関する商談（二） サンプル送付の返事 5　オッファーを巡る話し合い 6　製品紹介のレター 7　商品の紹介/オッファーシート（一） 8　オッファーシート（二） 9　カウンタービット（一） 契約書の送付 10　カウンタービット（二） 契約書（一）契約内容 11　コミッションについての取り決め（一） 契約書（二）支払方法 12　コミッションについての取り決め（二） 実習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・毎回配布するプリント ・『実習ビジネス中国語 ―商談編』白水社	出席率、及び定期試験の成績を総合して評価します。 総合成績が６０点以上で単位取得。

	中国語演習（ビジネス中国語）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
中国経済の急成長は素材、ｴﾈﾙｷﾞｰの需要を膨らませ、現在、世界の市場を揺さぶる程の影響力を持つに至りました。こうした中国経済のグローバル化を背景に、現在、中国語を自由に操れるﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ（ﾋﾞｼﾞﾈｽｳｰﾏﾝ）の育成が急速に求められています。 本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を修得すると共に、ビジネス業務をスムーズに遂行するための正確且つ的確な「契約書」や「仕様書」等の「ビジネス文書」の書き方を学習します。併せて、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識を理解することを目指します。 実際の授業では、毎回「ビジネス文書」を作成すると同時に、全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めていきます。	1　貿易業務の仕組みと業務の流れについて 2　オーダーの商談（一）/契約書の付属文書 3　オーダーの商談（二）/契約書の変更 4　支払条件（一）/信用状開設の督促 5　支払条件（二）/信用状の期限延期（一） 6　船積み期日（一）/信用状の期限延期（二） 7　船積み期日（二）/船積通知とﾄﾞｷｭﾒﾝﾄの送付 8　パッキングの取り決め（一）/保険料の問合せ 9　パッキングの取り決め（二） 品質に対するクレームの申し立て 10　インシュランス（保険）の取り扱い（一） クレームへの返事 11　インシュランス（保険）の取り扱い（二） 12　実習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・毎回配布するプリント ・『実習ビジネス中国語 ―商談編』白水社	出席率、及び定期試験の成績を総合して評価します。 総合成績が６０点以上で単位取得。

	日本思想史 a	担当者	小澤　浩

講義目的、講義概要	授業計画
1. 日本の伝統的な思想に触れることの現代的な意義を学び、自己の精神形成の糧とする。 2. 思想や意識の領域に接近する方法や視点を学ぶ。 3. 古代から近・現代までの日本思想史の大きな流れを把握するとともに、とくに支配階級や知識人の思想とは相対的に区別される、近世から近代にかけての民衆思想の流れに焦点を当てる。	1. 思想史への誘い（武田清子編『思想史の方法と対象』などを手がかりに） 2. 日本における思想のあり方①（丸山真男『日本の思想を手がかりに） 3. 日本における思想のあり方②（加藤周一『雑種文化』などを手がかりに） 4. 日本とアジア（竹内好「中国の近代と日本の近代」などを手がかりに） 5. 古代・中世思想史概観 6. 近世思想史概観 7. 近世民衆の思想──百姓一揆と義民信仰① 8. 近世民衆の思想──百姓一揆と義民信仰② 9. 近世民衆の思想──心中物と町人物の世界① 10. 近世民衆の思想──心中物と町人物の世界② 11. 近世民衆の思想──心中物と町人物の世界③ 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント等による。参考文献は適宜紹介する。	期末レポート、および適宜課す感想文等による。

	日本思想史 b	担当者	小澤　浩

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照。 春学期の「日本思想史 a」は履修していなくてもよいが、「日本思想史 b」のみ履修する場合は、指定する文献を読むように指示する。	1. 近代思想史概観 2. ナショナリズム＝国体論の系譜①　水戸学 3. ナショナリズム＝国体論の系譜②　復古神道 4. 民衆宗教の系譜　天理教と金光教 5. 民衆宗教の系譜　丸山教と大本教 6. 民俗の思想　柳田國男① 7. 民俗の思想　柳田國男② 8. エコロジーの思想　南方熊楠① 9. エコロジーの思想　南方熊楠② 10. 民芸の思想　柳宗悦① 11. 民芸の思想　柳宗悦②
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

	日本文化・芸能論 a	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。 日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。 春学期は日本という文化の中で人々が「目に見えない存在」とどう対峙してきたかを、「神」と「米」を手掛かりに探るのがテーマである。 なお、６～７月に歌舞伎の鑑賞（参加費 1500 円程度）を行う。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の「来し方」 複合重層性と「見えないもの」に対する意識 3　神の出現と芸能① 春日若宮のおん祭 4　神の出現と芸能② 八重山の祭と芸能Ⅰ 5　神の出現と芸能③ 八重山の祭と芸能Ⅱ 6　神の出現と芸能④ 岩手県の鹿踊・剣舞 7　神の出現と芸能⑤ 「自然」と「神」、「魂」と「力」の問題 8　田植の習俗と芸能① 中国地方の花田植 9　田植の習俗と芸能② 東北の田植踊りⅠ 10　田植の習俗と芸能③ 東北の田植踊りⅡ 11　田植の習俗と芸能④ 能登のアエノコト 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室でその都度指示する	数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績

	日本文化・芸能論 b	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。 日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。 秋学期は日本という文化の中で人間同士が互いの関わりをどう捕らえてきたか、「恋」と「歴史」を題材に考えていくのがテーマである。 なお 11～12 月に落語・能または文楽の鑑賞（参加費 2000 円程度）を行う。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化における人間関係 複合重層性、対峙する「恋」、振り返る「歴史」 3　日本文化における「恋」の諸相① 「弧悲」・性愛 4　日本文化における「恋」の諸相② 仏教・儒教・武士・キリスト教 5　日本文化における「恋」の諸相③ 愛執・男色 6　日本文化における「恋」の諸相④ 恋愛の観念 7　芸能における「恋」の表現② 歌舞伎 8　芸能における「歴史」の表現① 語り…狂言 9　芸能における「歴史」の表現② 語り…落語 10　芸能における「歴史」の表現③ 語り…節談説教 11　日本文化における人間関係 個人の対峙・集団の対峙・過去と現在の対峙 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室でその都度指示する	数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績

	日本近現代史ａ	担当者	丸浜　　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。	1　8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　真珠湾からか、コタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　加害の問題①―731 部隊とは何か 6　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 7　加害の問題③―強制連行と従軍慰安婦 8　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　兵士と民衆③―荷担と抵抗をめぐって 12　まとめとして―戦争の全体像を考える

テキスト、参考文献	評価方法
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

	日本近現代史ｂ	担当者	丸浜　　昭

講義目的、講義概要	授業計画
「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　サンフランシスコ講和のもった問題 5　内外での補償・賠償をめぐって 6　日本とドイツの戦後補償 4　東京裁判をめぐって 7　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8　日中国交回復への道のり 9　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 10　アジアの民衆からの戦後補償要求 11　戦後 50 年の国会決議をめぐって 12　過去の戦争と現代の戦争

テキスト、参考文献	評価方法
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日　本　文　学	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
文学（言語芸術作品）とは、本来読んであるいは聴いて楽しめればそれでいいものである。むろん楽しみ方には色々な道があろうが、文学が表現される時、その楽しみ方があらかじめ指示されているわけではない。 むろん、時代や社会の状況に応じて表現の意図には制約があったはずだが、我々がそれを受け止める時に、個人で楽しむ分にはなんら気にする必要はない。であるならば、なぜ大学の講義で文学を取り上げなければならないのか？ その目的の一つは、様々な文学を受け止めることによって言語表現を豊かにするために、その方法を獲得することである。もう一つは文学がどう表現されたかを理解することで、文化の生成の有り様を理解することである。本講義の力点は後者にある。 今年度は日本文学の特徴の一つである「恋」の諸相をウタと物語の文学史の中から拾い上げていく。 必要に応じて薄目の文庫本の購入を指示し、諸君に読破を要求することになる。	1　オリエンテーション・導入 日本文学とは何か？日本文学の時代 2　ウタの「恋」① 古典和歌（万葉・古今新古今の短歌から） 3　ウタの「恋」② 中世歌謡（梁塵秘抄・閑吟集） 4　ウタの「恋」③ 近世語り物（御伽草子・浄瑠璃） 5　ウタの「恋」④ 近代短歌 6　ウタの「恋」⑤ 現代の短歌 7　物語・日記の「恋」① 古事記・日本書紀 8　物語・日記の「恋」② 中古文学（源氏物語・和泉式部日記） 9　近代文学の「恋」① 鴎外・透谷 10　近代文学の「恋」② 一葉・鉄幹 11　現代文學の「恋」 セカチュー、その他 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教室でプリントを配布、または購入を指示	数回の小レポートと学期末の試験、もしくは学期末のレポート

	日本経済論 a	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。 なお、本講義は内容上、春学期・秋学期を通して聴講するのが望ましい。	1．はじめに 2．戦後民主化政策と経済改革 3．戦後経済復興対策 4．ドッジ・ラインとシャウプ勧告 5．朝鮮戦争と日本経済 6．高度成長時代の到来 7．高度成長の構造 8．高度成長の精神的土台 9．高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1)　ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2)　オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換
テキスト、参考文献	**評価方法**
主に統計表などのプリントを配布。	学期末試験の結果（通年講義は春学期・秋学期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。

	日本経済論 b	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえつつ、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否と小泉内閣の構造改革施策の位置づけを試みたい。 なお、本講義は内容上、春学期・秋学期を通して聴講するのが望ましい。	1．スタグフレーションとトリレンマ 2．レーガノミクス 3．グローバル化の波 4．日本経済のバブル化 5．バブル経済の発生原因 6．バブル経済の崩壊 7．複合不況 8．「失われた１０年」とその意味 9．景気対策か構造改革か(1) 10. 景気対策か構造改革か(2) 11. 小泉内閣の構造改革施策 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
主に統計表などのプリントを配布。	学期末試験の結果（通年講義は春学期・秋学期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。

	日本政治外交史 a	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。 日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治外交史を講義している。本年は、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力－とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革がどのような影響を日本に与えたかを見てみる。	1．はじめに―戦後日本と国際環境― 2．日米戦争への道 3．米国の占領政策（1）－ローズベルト 4．米国の占領政策（2）－国務省知日派の闘い 5．米国の占領政策（3）－ヤルタからポツダムへ 6．敗戦と占領の開始 7．政党の復活―戦前と戦後 8．新憲法の誕生 9．占領改革 10．戦後日本の出発－政党政治の復活 11．中道政権の形成と崩壊―改革から復興へ― 12．おわりに
テキスト、参考文献	**評価方法**
福永文夫『戦後日本の再生－1945～1964 年』丸善	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

	日本政治外交史 b	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。 日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治外交史を講義している。本年は、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力－とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革がどのような影響を日本に与えたかを見てみる。	1．はじめに―国際社会と戦後日本― 2．吉田茂の再登場 3．講和への胎動 4．「全面講和論」の展開 5．講和をめぐる国際関係 6．サンフランシスコ講和 7．保守勢力の混迷 8．「５５年体制」の成立－保守合同と社会党の統一 9．鳩山・岸内閣 10．60 年安保騒動と政党政治 11．池田・佐藤政権 12．おわりに
テキスト、参考文献	**評価方法**
福永文夫『戦後日本の再生－1945～1964 年』丸善	講義中に行う平常試験（50 点）と学期末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

	日本研究特殊講義（能楽論）	担当者	瀬尾 菊次

講義目的、講義概要	授業計画
中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。 この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に解明していきます。 また、一作品を教材として、他の芸能との関わりを考察します。 春期は、能楽の知識を主に全体像を捉えます。 「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。	① 古典芸能としての能楽 ② 能楽の概説 ③ 能楽のながれ ④ 能楽を演じる各役 ⑤ 能舞台について ⑥ 能の演技について（実演） ⑦ 能の演目について Ⅰ ⑧ 夢幻能と現在能 ⑨ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑩ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑪ 能の演目について Ⅱ（実演） ⑫ まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	日本研究特殊講義（能楽における中世武士の諸像）	担当者	瀬尾 菊次

講義目的、講義概要	授業計画
平安時代中期の武将・源頼光の鬼退治の伝説を能の作品で解釈・鑑賞し、同じ古典芸能の歌舞伎にどのように転化したか比較検討する。 秋期からの受講者のため、簡略な能の知識も視野に入れますが、より深い理解のために、春期からの通年受講を希望します。	① 能楽の紹介 ② 源頼光について ③ 能「土蜘」の作品解釈 Ⅰ ④ 能「土蜘」の作品解釈 Ⅱ ⑤ 能「土蜘」の鑑賞 ⑥ 能と歌舞伎 ⑦ 歌舞伎「土蜘」の鑑賞 Ⅰ ⑧ 歌舞伎「土蜘」の鑑賞 Ⅱ ⑨ 能「大江山」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑩ 能「大江山」の解釈と鑑賞 Ⅲ ⑪ 能に登場する鬼 ⑫ まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	日本語文法論 a	担当者	浅山佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教育のための日本語文法をまなぶ。目標は2つある。1つは，基礎的でかつ体系的な日本語文法の知識を獲得することである。もう1つは，日本語教育のなかでであうであろう個別の文法的な問題を解決するための技術，つまり言語を規則としてかんがえることのできる能力を養成することである。 外国語として日本語を学習するひとびとへの教育のためには，われわれが小中学校で学習してきた「国文法」では不足する。日本語教育のための文法は，他の言語の文法システムをもつ人にとっても理解可能な汎用性のたかいものでなければならず，また文を産出することのできる規則でなければならない。こうしたことを前提としてふまえたうえで，日本語教育のための文法体系をまなぶ。 春学期は，活用を中心とする形態論，および単文の命題レベルの統語論，および述語の後接要素の文法をあつかう。	１．ガイダンスと総論 ２．形態論(1)語 ３．形態論(2)活用 ４．後接要素(1)全体と可能 ５．後接要素(2)恩恵と方向 ６．後接要素(3)ヴォイスと変化 ７．後接要素(4)アスペクト ８．命題の構造(1)述語と格 ９．命題の構造(2)その他の格助詞 10. 命題の構造(3)連用修飾 11. 命題の構造(4)連体修飾 12. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントをもちいる。	試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。

	日本語文法論 b	担当者	浅山佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教育のための日本語文法をまなぶ。目標は2つある。1つは，基礎的でかつ体系的な日本語文法の知識を獲得することである。もう1つは，日本語教育のなかでであうであろう個別の文法的な問題を解決するための技術，つまり言語を規則としてかんがえることのできる能力を養成することである。 外国語として日本語を学習するひとびとへの教育のためには，われわれが小中学校で学習してきた「国文法」では不足する。日本語教育のための文法は，他の言語の文法システムをもつ人にとっても理解可能な汎用性のたかいものでなければならず，また文を産出することのできる規則でなければならない。こうしたことを前提としてふまえたうえで，日本語教育のための文法体系をまなぶ。 秋学期は，疑問・テンスとモダリティ，および複文と談話にかんする文法をあつかう。	１．ガイダンスと春学期のまとめ ２．疑問 ３．テンス ４．モダリティ(1)現実制御 ５．モダリティ(2)認識表示 ６．終助詞ととりたて ７．複文(1)並列節 ８．複文(2)従属節 ９．複文(3)連体節と補足節 10. 談話(1)主題 11. 談話(2)指示と省略 12. 秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントをもちいる。	試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。

	日本語音声学 a	担当者	城田　俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の子音、母音、音節、単語をいかに発音するかを調音音声学の立場から詳しく述べるのが本授業の目的である．母国語の音声の作り方を正しく知ることは、自分の母国語を磨くだけでなく、外国語の音を正しく認識し、正確に発音することに役に立つ．また、外国人に日本語を教える場合、発音の教育の仕方がわかり、発音の欠陥がどこにあるかを見出す手がかりをつかむことができる．このような立場から、日本語音声の全般にわたって解説を行う．発音は実践的行為である．授業では実際に発音練習を行うので積極的参加が望まれる．	1. 言葉と音:音声学と音韻論、単音と音素、意味を区別する音としない音､共通語と方言 2. 調音（１）: はく息と吸う息､音声器官と調音器官、各調音器官の説明 3. 調音　（２）: 調音点、調音方法(閉鎖、摩擦、破擦、弱い閉鎖、はじき、鼻音等) 4. 子音　(1) : 子音と母音、子音の種類、子音の調音、無声､有声、口蓋化、非口蓋化 5. 子音（２）: 閉鎖音、調音点による閉鎖音の分類、弱い閉鎖音 6. 子音（３）: 摩擦音､調音点による摩擦音の分類、弱い摩擦音 7. 子音（４）: 破擦音､鼻音､はじき音 8. 子音（５）: 子音の発音練習 9. 母音（１）: 母音の種類､前母音､後母音､狭母音､広母音、中開き母音､鼻音化母音 10. 母音（２）: 母音の諸相 11. 母音（３）: 母音の発音練習 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：城田俊『日本語の音 ―音声学と音韻論』ひつじ書房。参考文献は授業の進行状況に従い、その都度指示する．	期末試験 40%、出席 30%、授業への参加態度 30%

	日本語音声学 b	担当者	城田　俊

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に音節によって言語音を認識する日本人にとり、音節の概念は重要である．この音節がいままでいかなる体系をなして存在し､その体系の中で､いかなる新しい音節が生まれてきたかを解説する．これが今後いかに発展するかを見極めるのもまた重要である。 我々が学ぶヨーロッパの諸言語と異なる日本語の音声上の特徴は､高低アクセントにまずある。共通語のアクセント体系を実際に発音しながら､身につけることをここでは行う．なぜこのような体系ができたのか、その機能を統語機能と意味機能に分けて解説する． 音素の概念は､人文科学に新しい地平線を切り開いた．構造主義を成立させたこの概念を日本語に則して詳しく説明するのも本授業の目的の一つである。	1. 音節：音節とは何か、短音節と長音節､音節の種類、引く音､つまる音、はねる音 2. 音節体系：音節体系の変化､１００音節体系と新しい音節体系 3. アクセント（１）: 強弱アクセントと高低アクセント、固定アクセントと自由アクセント 4. アクセント（２）: 共通語のアクセント体系（１） 5. アクセント（３）: 共通語のアクセント体系（２） 6. アクセント（４）: 共通語のアクセント体系の練習 7. 音素論（１）: 音素とは何か､定義､音素論と人文科学 8. 音素論（２）: １００音節体系における子音音素 9. 音素論（３）: 新しい音節体系における子音音素 10. 音素論（４）:母音音素､４母音体系と 5 母音体系 11. 日本語教育能力検定試験における音声問題の解説 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
城田俊『日本語の音 ―音声学と音韻論』ひつじ書房．参考文献は授業の進行に従い適宜指示する．	期末試験 40%､出席 30%、授業への参加態度 30%

	対照言語学 a	担当者	中西家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
① 第二言語習得の理論を概観した後、日本語と他の言語の共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。 具体的なクラス運営 ① クラスの形態は講義と演習（学生による誤用分析）を中心とする。 ② 後期には講義と学生による課題発表を中心としたい。	１．オリエンテーション– 対照研究とは？ 誤用分析とは？ 言語類型論と対照研究 言語習得概論 ２．音のしくみ ３．語順 ４．形容詞 ５．指示代名詞 －コソアド ６．人称代名詞 ７．動詞 ８．テンスとアスペクト ９．日本語の構造（主題・解説 ｖｓ 主語・述部） １０．ヴォイス １１．授受表現 １２．モダリティー １３．その他、「原因」「理由」（推量）等さまざまな表現 上記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しない。基本的にはプリントの配布を中心とする。	① テスト ②課題発表 ③ 出席率 ④クラス態度

	対照言語学 b	担当者	中西家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	引き続き、上記の項目について講義＋演習の形で進める。授業形態としては、後期は学生の人数にもよるが、課題発表が中心となる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しない。基本的にはプリントの配布を中心とする。	① テスト ②課題発表 ③ 出席率 ④クラス態度

	日本語教授法 Ia	担当者	中西家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
将来、国内あるいは海外で日本語を教えてみたい、或は、ボランティア活動を通じて外国人と関わり、日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（但し､言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る)。言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論の紹介。主要な外国語教授法の概観。発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える。具体的な教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を紹介したのち、実際に教案・教材を作成してもらう。極めて実践的な授業である。課題研究の発表についてはグループワーク・ペアーワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般にわたるかなり広範囲の内容になる。	1．オリエンテーションとコースデザイン（レディネス分析とニーズ分析 2．学習理論・言語習得理論 3．外国教授法の流れ 4．オーティオリンガル　ｖｓ　コミュニカティブ・アプローチ 5．教材・教具論　　＜課題：教科書評価＞ グループ内での報告 6．技能別指導法 （1）　日本語の音声教育 （2）　聴解指導 （3）　文字指導 （4）　読解指導 （5）　作文指導 （6）　文法/文型の指導 （7）　会話指導　＜ドリルの作成＞ ドリル課題　－　グループでの検討 コミュケーション活動の紹介 （8）　文法（文型）の指導　－　導入方法 コミュニカティブ活動の作成 ＜課題：上記活動の作成＞ 7．クラス活動全体の展開 教案の書き方　－　導入からまとめまで クラスマネージメント（例：誤用の訂正方法） 8．＜課題：教案の作成＞とクラス内でのグループ発表 9．テスト作成法　・　評価　・　評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　①プリント ②『実践日本語教授法』　中西家栄子他 バベル出版　　③その他さまざまな参考文献は授業中に紹介	①課題提出 ②前期テスト　　③出席率

	日本語教授法 Ib	担当者	中西家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	春学期の上記の授業計画にあることを引き続き進める
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	①課題提出（教案の作成、その他） ②後期テスト　　③出席率

	日本語教授法Ⅱ	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教授法Ⅱ（担当者・中西家栄子）に准ずる。講義目的，講義概要および各回の内容，さらに評価方法とテキストについてはその項を参照のこと。	
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語教授法 II	担当者	中西家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察する。観察を通じ、各人が教室活動、指導法について具体的に評価・検討する。模擬授業は少なくても２．５回程度ある。	１回目　①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方　ー　復習 ④動詞の活用と分類　ー　復習 ⑤ドリル作成　ー　復習 ⑥授業観察の方法 ２回目より　担当者による模擬授業
テキスト、参考文献	**評価方法**
初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク　②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク	①模擬授業　②教案の提出　③レポート（授業観察のまとめと自己分析）④出席

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語教授法Ⅱ	担当者	松浦恵津子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心の授業である。 毎回、学生による模擬授業を行う。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生役あるいは観察者となる。各人が教室活動や指導法について具体的に評価・検討し、授業の改善を目指す。 模擬授業は、少なくとも１人２～３回は行う。	１回目　①オリエンテーション ②初級の学習項目 ③１つの授業の流れ ④教材・教具について ⑤教案の書き方 ⑥授業観察の方法 ２回目以降　担当者による模擬授業
テキスト、参考文献	**評価方法**
初級テキスト『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）を中心に 参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ教え方の手引き』	①模擬授業の準備と実践　②教案の提出 ③レポート（授業観察のまとめと自己分析） ④出席

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語学 a	担当者	城田　俊

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、現代の日本語の動詞及び形容詞が、いかなるかたちと意味を持ち、いかなる手段で結びつき、コミュニケーションの役に立っているかの仕組みを理解することにある。(2005 年度に行った講義「日本語学 a」、「ことばと思想（Ⅲ）(国文法から日本語文法へ)」と内容は基本的に一致する。よって、上記の単位取得者は受講することができない。2005 年度の講義と異なるのは、あまり関心の深まりを呼ばない国文法への言及を少なくし、新しい日本語教育用の文法に注意を集中した点にある。) テキストは特に指定しない。講義および授講者との対話によって授業を進める。ただし、以下に掲げる参考文献を読んでおくことが望ましい。	1. 品詞分け、国文法と日本語文法、膠着的形態と屈折的形態、日本語は膠着語か？ 2. 動詞の語尾のかたち、言い終るかたちと連なるかたち、現在形と過去形、日本語の時制（テンス)、かたちの作り方 3. 命令形、意思・勧誘形、ヨウによる推量、日本語の法（ムード) 4. 連らなるかたち（1）テ形、タラ形 5. 連らなるかたち（2）レバ形、タッテ形、タリ形 6. いわゆる「連用形」について 7. 形容詞のかたち 8. 動詞の語幹のかたち、かたちの作り方 9. 使役態（セル／サセル) 10. 受身態（レル／ラレル)、可能・自発態 11. 否定形（ナイ)、動詞の否定と形容詞の否定、否定の諸相 12. まとめ、試験の準備に関して
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　鈴木重幸著『日本語文法形態論』 むぎ書房、1972	出席、試験による

	日本語学 b	担当者	城田　俊

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、動詞のマス形やテ形＋補助動詞が表わす意味、名詞のかたちと意味、形容動詞とそれに類似する語類の用法及び文に付加されるモダリティーの理解を深めることにある。また、語と語の慣用的結びつきの本質を把握するのも目的の一つにあげられる。(2005 年度に行った講義「日本語学 b」「ことばと思想（Ⅲ）(国語学から日本語学へ)」と内容は基本的に一致する。よって、上記単位取得者は受講することができない。副題を変更したのは、講義の内容をより明らかにするためである。) テキストは特に指定しない。受講者参加方式の授業を目指す。ただし、以下に掲げる参考文献を読んでおくことが望まれる。	1. 動詞のていねいなかたち（マス) 2. 動詞のその他の語幹の拡大形 3. テ形＋補助動詞（1)、テクレル、テヤル、テモラウ、テクル、テイク 4. テ形＋補助動詞（2)、テイル、テオク、テアル、テミル、テシマウ 5. 敬語、主語に対する尊敬（オ＋「連用形」＋ニナル)、補語に対する尊敬（オ＋「連用形」＋スル)、マスとデス 6. 名詞、格助詞、事柄と登場者、述語の支配 7. 形容動詞とその類、名詞との区別、副詞、連体詞 8. ノダ文、推量を表わす文、カモシレナイ、ダロウ、ニチガイナイ、ヨウダ、ラシイ、ソウダ 9. 語と語の慣用的結びつき（1)、強め、讃え、正しさ、動詞化動詞、 10. 語と語の慣用的結びつき（2)、アスペクト、機能発揮、生成、調え、無化、等 11. 語と語の慣用的結びつき（3)、鳴き声のオノマトペ、助数詞、集合・集団、反義、反転等 12. まとめ、試験の準備に関して
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　鈴木重幸著『日本語文法形態論』 むぎ書房、1972	出席、試験による

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本語教育論	担当者	中西家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではなく、日本語、日本語教育、しいては語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。 １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．世界の中における日本語教育の現状を知る。 ３．日本語を外国語として概観する。 ４．日本語の基本的な仕組みを知る。 ５．日本語を外国人に教えるとは？	1) オリエンテーション　－　日本語教育の現場を見る　（ビデオ） 2) 日本語教育とは？　日本語教育と国語教育の違について 3) 日本語教育の歴史 4) 第一言語習得　対　第二言語習得 5) 外国語教授法－直接法 オーディオリンガル コミュニカティブ･アプローチ 6) 授業の展開　－　ビデオ 7) コースデザインとシラバス- 8) 日本語のしくみとその指導のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『教師用日本語教育ハンドブック⑦教授法入門』国際交流基金 参考文献　『新・はじめての日本語教育１』ＡＳＫ	１．テスト　　2．出席率 （欠席４回以上はＦとする）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	日本語教育特殊講義（英文文献を読む）	担当者	中西家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
１．この特殊講義は講義の部分もあるが、大部分は全員が参加する演習の形式で進められる。 ２．テキストの英文を読み、内容をまとめる。 ３．担当者は担当部分を要約し、クラスで配布する。 ４．要約内容を日本語教育に関連させ話し合う。 ５．知識の体系化を図る。 求められること： ①予習（予定されている部分を必ず読んで、クラスでは読んだ内容について意見を言えるように考えをまとめてくること）	1. オリエンテーション ① 発表担当の分担、いかなる方法で勉強をすすめるかの説明。 ② Introduction を読み、学習内容を確認する。 ２．2回目以降はテキストの内容に沿って進める。 Chapter l. First language acquisition 第一言語習得 Chapter 2. Behaviorism and second language learning 行動主義と第二言語習得 Chapter 3. Errors and learning strategies 誤用と学習ストラテジー Chapter 4. The Internal syllabus of the language learners 生得的に定められた言語習得過程 Chapter 5. Accounting for differences between learners 言語学習に成功するものとしないものの相違とは Chapter 6 Models of second language learning 第二言語習得モデル Chapter 7. Using a second language 第二言語でのコミュニケーションについて Chapter 8. Learning and teaching 学習と指導

テキスト、参考文献	評価方法
Foreign and Second Language Learning William Littlewood, Cambridge Language Teaching Library	① 課題（まとめ） ②試験の得点 ③出席率（欠席４回以上はF評価とする

02 年度以前	現代思想	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
他者理解の可能性と成立根拠を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。 日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の理解と比較を通じて、諸文化の基礎である思想的および宗教的基盤を理解する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、人類の選択すべき方向を考察する手がかりを得る。 今年は他者および自己理解の問題と同時に無限性の問題にも触れる。	１講義概要の説明。 ２現代が抱える他者性の問題の提示。 ３他者理解への思想的アプローチの仕方（１）。 ４他者理解への思想的アプローチの仕方（２）。 ５グループ分け、および、各グループの自主的な調査研究検討の時間。 ６各グループの自主的な調査研究検討の時間。 ７第一グループの研究発表とその質疑応答。 ８第二グループの研究発表とその質疑応答。 ９第三グループの研究発表とその質疑応答。 １０第四グループの研究発表とその質疑応答。 １１第五グループの研究発表とその質疑応答。 １２第六グループの研究発表とその質疑応答。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席状況と自分たちの研究への取り組み方と、そしてレポートの結果により評価。

02 年度以前	現代思想	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
「自己とは何か」を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。 日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の理解と比較を通じて、あまりにも個人主義化した自己あるいは自我の捉え方を、批判的に吟味する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、自己として生きざるを得ない人間が他者と共存するいわゆる「社会」において、いかなる道を歩むべきかを考察する手がかりを得る。	１講義概要の説明。 ２現代においうて「自己」が抱える問題の提示。 ３「自己とは何か」を考える手がかり（１）。 ４「自己とは何か」を考える手がかり（２）。 ５グループ分け、および、各グループの自主的な調査研究検討の時間。 ６各グループの自主的な調査研究検討の時間。 ７第一グループの研究発表とその質疑応答。 ８第二グループの研究発表とその質疑応答。 ９第三グループの研究発表とその質疑応答。 １０第四グループの研究発表とその質疑応答。 １１第五グループの研究発表とその質疑応答。 １２第六グループの研究発表とその質疑応答。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席状況と自分たちの研究への取り組み方と、そしてレポートの結果により評価。

	自然言語処理 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語といっている。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものである。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とする。 本講義は、自然言語処理の基礎技術について解説する。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学ぶ。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行う。	1　言葉とコンピュータ　自然言語処理の諸方面 2　自然言語処理の問題点　各種の曖昧性 3　自然言語処理の予備知識 4　形態素解析（1）　形態素解析の原理と方法 5　形態素解析（2）　日本語と英語の形態素解析実験 6　単語処理　単語の同定、単語の統計処理 7　構文解析（1）　文脈自由文法､句構造文法 構文解析システムの原理 8　構文解析（2）　構文解析の原理と実験 9　言語処理の知識源（1） 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10　言語処理の知識源（2） コーパス、言語データベースの構造と使い方 11　言語の統計処理 コーバスからさまざまな知識の抽出技術 12　総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）　最初の講義で指示する。 （2）　必要な資料を配布する。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

	自然言語処理 b	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とする。 本講義では、自然言語処理の基礎理論だくでなく、世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介する。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システムまどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行う。そして、現在の自然言語処理システムの問題点を検討する。	1　意味論：　自然言語の意味論、フレーム理論 2　意味解析：　意味解析の方法と実験 3　文脈解析：　談話構造、照応問題の対処法 4　知識の表現法 5　文書処理（1）　文章の校正・推敲支援 6　文書処理（2） 自動要約の原理、換言処理、要約システム構造 7　機械翻訳（1）　機械翻訳の処理方式と原理 8　機械翻訳（2）　機械翻訳システムの使用と評価 9　大規模データ資源から知識の抽出の技法 10　情報検索における言語処理技術 11　これからの自然言語処理 12　総合演習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）　最初の講義で指示する。 （2）　必要な資料を配布する。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

	プログラミング論 a(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual　Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行う。	1　授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2　プログラミング言語の発展史 3　開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4　Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5　簡単なプログラムの作成 基本なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6　イベント駆動型プログラム 7　文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8　選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9　選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10　繰り返しあるプログラムの作成（1） 回数指定による繰り返し、For～Next 文 11　繰り返しあるプログラムの作成（2） 条件指定による繰り返し 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）最初の講義で指示する。 （2）随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

	プログラミング論 b(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。 ここでは、Visual　Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。	1　プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2　配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3　文字列の処理プログラム（1） 簡単な翻訳プログラムの作成 4　文字列の処理プログラム（2） 文字列の照合と置き換え 5　図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6　文字列の表示 7　画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8　ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9　ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 10　応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11　再帰というプログラミング手法 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

	プログラミング論 a（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどうのようにすればよいかを理解することを目的とする。 基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic.NET でプログラミングの演習を行う。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説：ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2. Visual Basic.NET の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、文字の入出力 4. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算 5. 簡単なプログラム作成（3）：キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理 8. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10. 繰り返しのあるプログラム作成（1）：If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成（2）：Case 文、While 文 12. 総合問題作成：いろいろなコントロールを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

	プログラミング論 b（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。 本講義では、プログラミング論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげる。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 2. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 3. 図形の処理（3）：Windows の画像処理、タイマーの利用、 4. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップの利用 5. 音声、動画の処理：音声を録音する、音声を再生する 6. 配列とコントロール配列：一元配列、コントロール配列の利用 7. プルダウンメニュー：コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8. ファイルの利用（1）：テキストファイルの読み込み 9. ファイルの利用（2）：画像ファイルの読み込み 10. ファイルの利用（3）：シーケンスファイルの作成 11. ファイルの利用（4）：シーケンスファイルの読み込みと利用 12. インターネットの利用：Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

	プログラミング論 a（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	高柳　敏子

講義目的、講義概要	授業計画
はじめに、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの歴史を、ﾊｰﾄﾞｳｪｱおよびｿﾌﾄｳｪｱの両面から概観する。続いて、ｼﾐｭﾚｰﾀを利用して、仮想のｺﾝﾋﾟｭｰﾀとその上で動くｱｾﾝﾌﾞﾗ言語(COMETⅡおよびCASLⅡ)のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞおよび実習を通じて、ﾉｲﾏﾝ型ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの動作や制御の仕組み、およびｺﾝﾋﾟｭｰﾀ内部における情報の表現、さらに基本的なﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの仕組み等ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの原理を学ぶ。 ﾉｲﾏﾝ型ｺﾝﾋﾟｭｰﾀは1945年にvon Neumannによって提案され、実現されたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ内臓方式の電子計算機であるが、現在大型機からﾊﾟｿｺﾝに至るまで身の周りで稼動しているもののほとんどがﾉｲﾏﾝ型であり、見かけの進化に対してｺﾝﾋﾟｭｰﾀの内部構造は50年前とほとんどかわらない。基本原理は相変わらずﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ内臓方式、二進法、逐次制御であり、その基本およびﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの原理を理解するには、上述のような素朴で原始的はｺﾝﾋﾟｭｰﾀと言語がむしろ向いている。	1 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの歴史(1) ﾊｰﾄﾞｳｪｱ、ﾉｲﾏﾝ型、世代論と記憶素子 2 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの歴史(2) ｿﾌﾄｳｪｱ、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語、ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ 3 ﾉｲﾏﾝ型ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの構成とCOMETⅡ 五大装置、語・ﾋﾞｯﾄ構成、ｱﾄﾞﾚｯｼﾝｸﾞ、命令語、ﾚｼﾞｽﾀ 4 情報の表現(2) 整数と2の補数表記、2進法、16進法 5 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(1) CASLⅡの命令 (ｱｾﾝﾌﾞﾗ、ﾏｸﾛ、機械)、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ形式 6 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(2) ﾛｰﾄﾞ・ｽﾄｱ命令、加減算命令、定数と領域の確保 7 CASLⅡｼﾐｭﾚｰﾀとその実行(3) ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの入力、編集、ｱｾﾝﾌﾞﾙ、実行、記憶 8 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(4) 乗除算処理、ｼﾌﾄ演算 9 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(5) 比較演算、分岐処理 10 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(6) 繰り返し処理 11 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(7) 情報の表現(2) 文字の内部表現とその扱い 12 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(8) 総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を提示する。 参考書：『CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ』ITEC、2001	定期試験、2回ほどのﾚﾎﾟｰﾄおよび出席を加味して評価する。

	プログラミング論 b（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	高柳　敏子

講義目的、講義概要	授業計画
ここでは、上記「ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 a」の既習すなわちﾉｲﾏﾝ型のｺﾝﾋﾟｭｰﾀの基礎を理解していることが前提になる。 その上で主にｺﾝﾊﾟｲﾗｰ言語 C++をﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語として使用し、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの基礎から、問題解決のためのｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑの実現へと、講義内容意を加速的に広げていくことにより、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞによりどのようなことが可能か、どのような手法が実際に使われているのか等が理解される。 Windowsﾏｼﾝの応用ｿﾌﾄを使用している限り、中でどのような手法が使われているか等をほとんど意識することもなく、一般には便利さのみに頼って利用するが、改めてｿﾌﾄの内部にも思いを寄せてみることができよう。	1 ｱｾﾝﾌﾞﾗとｺﾝﾊﾟｲﾗ 例題ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの翻訳、連係編集、実行 2 C++言語とは 基本事項、文、ﾌﾞﾛｯｸ、ｺﾒﾝﾄ、整数の四則演算 3 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(1) 情報の表現(1) 実数 4 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(2) 判断・分岐、関係式、関係演算子、論理演算子 5 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(3) 繰り返し処理、配列 6 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(4) 情報の表現(2) 文字と文字列 7 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(5) 関数、ﾒｲﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとｻﾌﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 8 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(6) 関数の作成と利用 9 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(1) 基本的な整列 10 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(2) 探索処理 11 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(3) ﾌｧｲﾙ処理 12 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(4) 総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を提示する。 参考書：K.Jamsa 著、春木良且訳『C++超入門』 第3版、ｱｽｷｰ出版、1999	定期試験、2回ほどのﾚﾎﾟｰﾄおよび出席を加味して評価する。

	プログラミング論 a（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できくるオブジェクト記述型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プロブラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。 基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。	1　授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 2　 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3　文字の表示：講義と実習 4　簡単な計算：講義と実習 5　関数の利用：講義と実習 6　飛び越し命令：講義と実習 7　条件判断による分岐：実習 8　コントロールによる分岐：実習 9　選択用コントロールによる分岐：実習 リストボックス、チェックボックスの利用 10 回数指定による繰り返し：講義と実習 If と Go To、 For Next を用いた繰り返し 11 条件指定による繰り返し：講義と実習 Case 文、While 文、Loop 文 12　総合問題作成：実習 いろいろなオブジェクトを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

	プログラミング論 b（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のリポートとする。	1　プログラムの分割：講義と実習 2　プログラムの構造化：講義と実習 3　配列の処理：講義と実習 4　配列の入出力：講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5　文字列の処理：講義と実習 6　図形の描画：講義と実習 7　画像の取り扱い：実習 8　ファイル処理と記憶装置：講義と実習 9　 シーケンシャルファイルの処理：講義と実習 10 ランダムファイルの処理：講義と実習 11　ファイルダイアログコントロール：講義と実習 12　インターネットの利用：講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

	プログラミング論 a（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能をフルに活用できるベントドリブン型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プロブラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。	1　授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2　Visual Basic.NET の概略:講義と実習 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3　簡単なプログラム作成（1）:講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力 4　簡単なプログラム作成（2）:講義と実習 四則演算 5　簡単なプログラム作成（3）:講義と実習 キャッシュレジスター 6　選択のあるプログラム作成（1）:講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7　選択のあるプログラム作成（2）:実習 多くの選択のあるプログラムの処理 8　選択のあるプログラム作成（3）: 実習 オプションボタン、チェックボタンの利用 9　選択のあるプログラム作成（4）: 実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10 繰り返しのあるプログラム作成（1）: 講義と実習 If と Go To、 For Next を用いた繰り返し 11 繰り返しのあるプログラム作成（12）: 講義と実習　Case 文、While 文 12　総合問題作成：実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

	プログラミング論 b（コンピュータ・プログラミング論）	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のリポートとする。	1　図形の処理（1）: 講義と実習 直線を描く、曲線を描く 2　図形の処理（2）: 講義と実習 円を描く、色を塗る 3　図形の処理（3）: 講義と実習 Windows の画像処理、 タイマーの利用 4　図形の処理（4）: 講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5　音声・動画の処理：講義と実習 音声を録音する、音声を再生する 6　配列とコントロール配列：講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用 7　プルダウンメニュー：実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8　ファイルの利用（1）: 講義と実習 テキストファイルの読み込み 9　ファイルの利用（1）: 講義と実習 画像ファイルの読み込み 10 ファイルの利用（1）: 講義と実習 シーケンスファイルの作成 11　ファイルの利用（1）: 講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用 12　インターネットの利用：講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	田房　由起子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、異文化間コミュニケーション研究の歴史的変遷を概観しつつ、さまざまな文化的差異に着目したい。そして、そこから、なぜ身近な異文化に目を向けることが重要なのかを考えていく。さらに、文化が「同じ／異なる」ということがどういうことか、また、異文化間コンフリクトがいかにして生じるのかという点について検討したい。	1. オリエンテーション 2. 異・文化と自・文化 3. 文化とコミュニケーション(1) 4. 文化とコミュニケーション(2) 5. 異文化間コミュニケーション研究の歴史(1) 6. 異文化間コミュニケーション研究の歴史(2) 7. 異文化へのまなざし(1) 8. 異文化へのまなざし(2) 9. 内なる異文化(1) 10. 内なる異文化(2) 11. 内なる異文化(3) 12. 内なる異文化(4)
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社 2003	出席、レポート、試験による

	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	田房　由起子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、「真の異文化理解とはどういうことか」を模索し、理解を深めることである。 「異文化への（からの）まなざし」には憧れがある場合もあるが、一方で嫌悪が存在する場合もある。したがって、このテーマの答えを見つけ出すのは非常に難しい。しかし、本講義を通じて、異文化共生や異文化理解の糸口を見つけられるよう、考えていきたい。 春学期の「異文化コミュニケーション論 a」も合わせて履修すること。	1. オリエンテーション 2. ステレオタイプとは 3. 「日本」の表象(1) 4. 「日本」の表象(2) 5. 自文化中心主義と異文化(1) 6. 自文化中心主義と異文化(2) 7. 自文化中心主義と異文化(3) 8. 相互行為分析と異文化研究 9. 多文化主義とは何か 10. 多文化主義をめぐる論争 11. 多文化主義がかかえるジレンマ 12. 多文化教育のこころみ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社 2003	出席、レポート、試験による

	マスコミュニケーション論 a	担当者	上村幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代のマスコミについて多角的に考える。取り上げる対象は、新聞、テレビ、出版（書籍）、インターネット、広告媒体など。 新聞社でジャーナリストとして働き、米国や中国で１４年間にわたって海外特派員として暮らした経験を踏まえ、実践的なマスコミ論を紹介したい。 とりわけ、社会的な事件、社会現象を取り上げながら、現代社会におけるマスコミ、メディアの役割とその問題点について考える。 その中には、中国の反日デモや９・１１テロ、イラク戦争、女性天皇問題、選挙報道、ホリエモンの逮捕などといったトピックも含める。 グリコ・森永事件やベトナム戦争、ケネディ大統領暗殺、天安門事件などといった歴史的な事件にも言及する。 テレビ番組、ドラマや書籍を通してさまざまな社会現象が起きている。ドラマや映画、アニメといったソフトが海外に紹介され、国際交流に影響を与えている。 そうした現象が起きる背景や、マスコミの果たす新しい役割についても考える。 たとえば日本のドラマの「おしん」と「冬のソナタ」といった韓流ドラマとの比較なども行う。	1　マスコミとは何か 2　大統領の陰謀から考える 3　戦争報道の歴史 4　国家とメディア 5　政治権力の介入 6　選挙と報道 7　テレビ・ジャーナリズム 8　テレビ番組と社会現象 9　出版と社会 10　ラジオの歴史的役割 11　インターネット時代 12　前期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくになし	出席、レポート、試験など

	マスコミュニケーション論 b	担当者	上村幸治

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	1　マスコミと国際社会 2　報道規制 3　事件とジャーナリズム 4　災害報道と社会貢献 5　メディアの仕組み 6　雑誌ジャーナリズム 7　人権、プライバシーの保護 8　広告媒体のパワー 9　写真ジャーナリズム 10　テレビドラマと国際交流 11　ネット世論と外交 12　後期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

	認知科学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問である。したがって、その研究領域は非常に広範囲におよぶ。本講義では、まず、認知とはなにかを述べ、次に，知覚機能や記憶、思考、言語、脳の働き、推論、空間認知などについて説明する。本講義を通して多面的に人間の「知」のしくみや機能を理解してほしい。 受講者数にもよるが，授業は演習形式で進めていく予定である。その際には，受講者に何らかの資料をまとめてもらい，発表してもらう。	授業計画は以下の通り 1．授業ガイダンス 2．認知科学の対象と領域 3．知覚① 4．知覚② 5．空間の認知 6．記憶の種類 7．記憶のしくみ 8．記憶と脳 9．記憶の誤り 10．思考と言語① 11．思考と言語② 12．思考と推論
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。	出席とレポート発表，試験などにより総合的に評価する

	認知科学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
半期完結授業のため，春学期の説明を参照のこと	
テキスト、参考文献	**評価方法**

	人間関係とカウンセリング a	担当者	瀧本孝雄

講義目的、講義概要	授業計画
カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。 前期では、まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的技法について学ぶ。特にカウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。 言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の２年生以上の学生は受講できる。 実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講生が 50 名以上の場合抽選による。出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。	1　カウンセリングとは何か（定義・目的） 2　カウンセラーの役割と資格 3　カウンセラーの世界（相談機関） 4　クライエント中心カウンセリング（1） 5　クライエント中心カウンセリング（2） 6　精神分析的カウンセリング 7　認知行動カウンセリング 8　傾聴の理論 9　傾聴の実習 10　ロールプレー実習（1） 11　ロールプレー実習（2） 12　教育、産業、医療とカウンセリング
テキスト、参考文献	**評価方法**
『カウンセリングへの招待』　瀧本孝雄著 サイエンス社　2005	評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。

	人間関係とカウンセリング b	担当者	瀧本孝雄

講義目的、講義概要	授業計画
後期ではカウンセリングの関連領域であるパーソナリティ、人間関係、発達心理等について学習する。 ここでは、パーソナリティ理論、人間関係と性格との関連、乳幼児期から老年期までの発達的諸問題について理解する。 言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の学生は受講できる。 実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講生が 50 名以上の場合抽選による。出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。	1　パーソナリティの定義 2　パーソナリティの類型論と特性論 3　パーソナリティの形成と変容 4　文化とパーソナリティ 5　発達とパーソナリティ 6　葛藤の理論 7　欲求不満（フラストレーション） 8　防衛機制 9　ストレス・マネージメント 10　グループ・ワーク（1） 11　グループ・ワーク（2） 12　人間理解とカウンセリング
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーを配布する	評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。

	情報コミュニケーション研究特殊講義（CAEL）	担当者	Ｊ．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register. In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following: - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm> There is a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do> Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.	This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester. Week: 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study, 12. Personal study, self-evaluation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.	This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10%　Quizzes 30% Study plan 20%　Journals 30%　Self-evaluations 10%

	情報コミュニケーション研究特殊講義（CAEL）	担当者	Ｊ．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register. In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following: - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm> You can try a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do> Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.	This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester. Week: 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study 12. Personal study, self-evaluation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.	This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10%　Quizzes 30% Study plan 20%　Journals 30%　Self-evaluations 10%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	情報・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究特殊講義(ｺｰﾊﾟｽ言語学入門)	担当者	浅山佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教育のための，コンピュータをもちいた言語分析の方法をまなぶ。 よってコンピュータはあくまで道具であり，それ自体が目的となるものではない。授業の目的は，基本的に日本語教育のためのコーパス言語学にある。 授業は，教員が簡単なモデルを提示したあと，練習問題をだすので，それを受講生が実習するという形式を原則とする。 さらに簡単なコーパスの設計と組み立て，それを利用した簡単な研究を課題としてあたえるので，履修者には，課題をこなして，発表することがもとめられる。 なお，コンピュータについての専門的な知識はまったく必要ないが，日本語分析についての知識は，あるほうがのぞましい。	1．コンピュータとDOS 2．テキストファイル 3．コーパスの設計と構築 4．データのダウンロード 5．テキスト処理・検索(1) 6．中間発表(コーパスの設計)(1) 7．中間発表(コーパスの設計)(2) 8．テキスト処理・検索(2) 9．テキスト処理・検索(3) 10. 形態素解析 11. 最終発表(コーパスによる分析)(1) 12. 最終発表(コーパスによる分析)(2)

テキスト、参考文献	評価方法
開講後指示する。	発表と出席で評価する。

	地域文化論ｉa(ラテンアメリカ)	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、ラテンアメリカから発信されている日本に生きる私たちにも関係する問いかけを知り、考えることにある。 この講義では、まず、①現代ラテンアメリカの最大の問題だと担当者が考える米国およびその新自由主義政策への対応を軸にその特徴を現代史を通じて明らかにする。ここでの問題意識は、ラテンアメリカが米国と一体化するのか、あるいはラテンアメリが米国と対峙し別の世界を形成するのかという問いである。次に、②米国とは違った地域としてラテンアメリカが誕生する経緯を通史的に論じる。こうした区別が出来上がるのは、それほど遠い昔のことではない。③では、カリブ海世界の特徴を把握した上で、カリブ海世界からのアデンティティに関する問いかけを考えたい。④は、私たちとラテンアメリカの直接的関係に目を向けるための講義である。⑤は、秋学期への導入である。 授業では、毎回、音楽・絵画・小説・映画・民衆芸術などを紹介し、ラテンアメリカ文化の豊かさを具体的に示したいと思う。	①現代ラテンアメリカ：米国と向き会う「ほかの道」の模索 ・世界社会フォーラム ・現代史の特徴：キューバ革命からベネズエラ･チャベス政権、ボリビア･モラレス政権の誕生まで ②ラテンアメリカの誕生 ・　1492 年 ・　二つの世界：インディオ社会とスペイン人社会 ・　ラテンアメリカ統合の夢：ボリバルと独立 ・　ラテンアメリカの誕生　「アリエル」 ・　二つのアメリカ ③カリブ海世界からの挑戦 ・収奪の海 ・世界音楽のゆりかご ・クレオール宣言 ④アジア／日本とラテンアメリカ ・　フィリピン ・　ラテンアメリカにおける中国系･日系移民 ・　日本にとってのラテンアメリカ ⑤米国とメキシコ ・二つのアメリカの分かれるところ
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が授業中に指示する。	レポートと授業への積極的参加

	地域文化論ｉb(ラテンアメリカ)	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、米国とメキシコにおける人種・民族集団の現状と人種間関係を論じることで両地域の人種・民族集団概念を再検討することを目的にする。従来、人種概念は国家ごとに別の枠組みで考えられていたが、この講義では隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。同時に、メキシコから米国への移動の理由について代表的解釈を紹介したい。 一般には米国の人種概念とメキシコ（ひいてはラテンアメリカ）の人種概念はまったく違うものと考えられている。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種概念の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論を人種の観点から深めたい。さらに、チカノ運動に見られる先住民性の強調をメキシコでの先住民運動やインディヘニスモの変容などと関わらせて論じていきたい。 メキシコと米国には、文化的歴史的背景を共有する先住民がいる。この事実は、両地域を分断して分析することの問題性を明確に示すものである。北米自由貿易協定締結後の状況は、メキシコにおける先住民認識にも変化をもたらしているように思える。メキシコ先住民についても取り上げる。	ラティーノ(米国のスペイン語系住民) ・センサスから見る米国における人種・民族集団概念 ・米国ラティーノの特徴 ・ヒスパニックからラティーノへ メキシコから米国への人の移動 ・サスキア・サッセンの説 ・移動の歴史：ブラセロ協定など ・北米自由貿易協定と国境線の警備強化 チカノ（米国のメキシコ系住民） ・チカノ運動とセサル・チャベス ・チカノと先住民：アストラン伝説と「アストラン宣言」 ・プエブロ･インディアン ・米国先住民とはだれか メキシコの先住民 ・メキシコにおける先住民概念 ・サパティスタ蜂起 ・メキシコ革命とインディヘニスモ ・メキシコ先住民の米国への移民 ・インディヘニスモの変容：複数文化国家と新自由主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が授業中に指示する。	レポートと授業への積極的参加

	地域文化論 iia（スペイン）	担当者	二宮 哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。 主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。 タイトルは通年同じであるが、１テーマ数回の授業なので、春・秋片方のみでも問題はない。	①　「スペイン」と「スペイン語」 Glosas Emilianenses ②　イスラム･スペイン Jarchas ③　「Cantar de Mío Cid」 ④　「1492」 Gramática de la Lengua Castellana ⑤　「Don Quijote」 ⑥　「闘牛」 ⑦　「フラメンコ」 García Lorca ⑧　「ピカソ」 以上の作品を軸に授業を進行する。なお、扱う順序やこれ以外の作品については初回の授業で具体的に説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。

	地域文化論 iib（スペイン）	担当者	二宮 哲

講義目的、講義概要	授業計画
上記参照	上記参照
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。

	地域文化論ⅲａ（中国）	担当者	易　友人

講義目的、講義概要	授業計画
主中华民族(主要要是汉族)在长期生活和生产活动中形成、沿袭并不断发展了包括祭礼、婚仪、岁时节日、语言在内的中国独特的习俗文化。 传统的中国文化是中国人民宝贵的精神财富。本课程的教学目的是让学习者在学习汉语、提高汉语水平的同时，能够进一步了解有着五千年文明历史的中国传统文化与习俗。	第 1 回　春节的起源 第 2 回　拜年和守岁的习俗 第 3 回　爆竹的由来 第 4 回　元旦 第 5 回　元宵节 第 6 回　正月十五闹花灯 第 7 回　端午节 第 8 回　中秋节 第 9 回　重阳节的习俗 第 10 回　重阳节吃糕 第 11 回　少数民族的年节 第 12 回　见面与待客的礼节
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席、レポート、試験による

	地域文化論ⅲｂ（中国）	担当者	易　友人

講義目的、講義概要	授業計画
主中华民族(主要要是汉族)在长期生活和生产活动中形成、沿袭并不断发展了包括祭礼、婚仪、岁时节日、语言在内的中国独特的习俗文化。 传统的中国文化是中国人民宝贵的精神财富。本课程的教学目的是让学习者在学习汉语、提高汉语水平的同时，能够进一步了解有着五千年文明历史的中国传统文化与习俗。	第 1 回　婚嫁的礼俗。 第 2 回　起名字习惯及起名方法。 第 3 回　服饰的民族特征。 第 4 回　饮食历史趣谈。 第 5 回　南北饮食特征(1) 第 6 回　南北饮食特征(2) 第 7 回　中国人的居住民俗文化。 第 8 回　中国人的交通民俗文化。 第 9 回　服饰、饮食的禁忌。 第 10 回　语言行为的禁忌(1) 第 11 回　语言行为的禁忌(2) 第 12 回　语言行为的禁忌(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席、レポート、試験による

	地域経済論 ia（ラテンアメリカ）	担当者	今井　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカの政治経済についてアジア、アフリカと比較しながらその特質を理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然、住民、文化について概観する。さらに同地域の政治経済の歴史的変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下での政治経済の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在ラテンアメリカ地域が抱えている主要な政治経済問題と今後の課題について解説し、さいごに日本とラテンアメリカの政治経済関係について考察する。講義に加えてディスカッション形式でラテンアメリカ政治経済について考える。	1．　序　ラテンアメリカ概観―ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較 2．第 1 章　ラテンアメリカ政治経済史、 第1節　時期区分 3．第 2 節　先コロンブス期（植民地以前の時期） 4．第 3 節　植民地期 5．第 4 節　独立期 6．第 5 節　第一次産品輸出経済確立期 7．第 6 節　工業化から地域統合に至る時期 8．第 2 章　ラテンアメリカ経済の現状と問題点 9．同上 10. 同上 11. 第 3 章　日本とラテンアメリカの関係 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業で参考文献リストを配布する。	出席点、授業中のリアクションペーパーおよび 学期末に提出するレポートによる。

	地域経済論 ib（ラテンアメリカ）	担当者	今井　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカの政治経済についてアジア、アフリカと比較しながらその特質を理解し、ラテンアメリカ地域の自然、住民、社会について概観する。ラテンアメリカ経済を理解するために必要な経済学の基礎知識について講義した後、ラテンアメリカのにおける経済開発の思想･理論について学ぶ。シモン･ボリーバル、フアン･バウティスタ･アルベルディ、ラウル･プレビッシュ等の思想に加えて、構造学派、従属論、ネオリベラリズム（新自由主義）等の理論について学ぶ。これらの思想や理論を踏まえて、ラテンアメリカ地域における主要な経済政策の潮流について整理する。 　そしてラテンアメリカ経済の現状とその主要な経済問題および今後の課題について解説し、さいごに日本とラテンアメリカの経済関係について、移民、貿易、投資、政府開発援助などを中心に考察する。	1．序　ラテンアメリカ政治、経済、社会概観 2．ラテンアメリカ経済を理解するための経済学的基礎 3．同上 4．ラテンアメリカにおける経済開発の思想･理論 5．同上 6．同上 7．ラテンアメリカにおける主要な経済政策の潮流 8．ラテンアメリカ経済の現状とその主要問題 9．同上 10. 日本とラテンアメリカの経済関係 11. 同上 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業で参考文献リストを配布する。	出席、授業中のリアクションペーパーおよび 学期末に提出するレポートによる。

	地域経済論ⅱａ（アジア）	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、オーストラリアを中心に取り上げる。但し、オーストラリアを理解するために必要な場合は、他のアジア太平洋諸国についても言及する。 近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国として、また、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、さらに、多様な文化の維持、発展に努め、世界で最も人気の高い移住先国、留学先としても知られている。しかし、同国は７０年代中期から８０年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては名だたる保護貿易主義国であり、有色人種移民を排除する人種差別国家でもあった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような変化をもたらしてしてきたのか。この講義では、このような課題について、経済的視点を中心に据えながら、自然環境、歴史条件、文化的背景、政治社会体制、地政学的環境など、多様な切り口から解明する。これらの切り口の中で、春学期においては、自然条件、歴史条件、および、１９７０年代初頭までの、文化的背景について取り上げる予定である。	1　講義の目的。地域研究の意義。ビデオ教材によるオーストラリア社会概観。 2　総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ（1） 3　総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ（2） ＜注意＞　この「総論」は、年間を通じるこの講義の基本的なメッセージ（仮設）を述べるもので特に重要。 4　歴史：流刑囚労働と羊毛産業の発展 5　歴史：金発見とその影響（1） 6　歴史：金発見とその影響（2） 7　歴史：平等主義、仲間主義の起源。 ：１９世紀に３０年続いた好況 8　歴史：１８９０年代の恐慌とその影響 9　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（1） 10　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（2） 歴史：経済ナショナリズム 11　文化：エトス、アイデンティティ問題 12　文化：アボリジニ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント中心。なお、テキストとしては使用しないが、次の書物は講義を理解する上で有用。竹田いさみ。森健編『オーストラリア入門』東大出版会　２００５年（第５刷）	定期試験

	地域経済論ⅱｂ（アジア）	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的と概要については春学期「地域経済論ⅱａ」を参照。秋学期では、春学期に引き続き、多文化社会化政策、政治社会体制、対外経済政策、産業構造変化、日豪関係などを切り口としてオーストラリアを分析する。なお、この講義は事実上、１年間で完結しているので、春学期の講義を履修しておくこと。）	1　前期講義の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観 2　移民政策の変化 3　女性進出と家族 4　多文化主義社会化政策導入の経緯 5　反多文化主義の流れ 6　政治システム 7　１９７０年代以前の主要政策体系 8　ホーク＝キーティング労働党政権の政策（1） 9　ホーク＝キーティング労働党政権の政策（2） 10　ハワード保守連立政権の政策（1） 11　ハワード保守連立政権の政策（2） 12　日豪関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
（春学期「地域経済論ⅱａ」に同じ）	（春学期「地域経済論ⅱａ」に同じ）

	地域経済論ⅲa(中国)	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，その動向が，今や世界の経済に大きなインパクトをもたらすようになった中国経済を中心に論ずる。今年度は，通論的な地域経済論とは趣を変え，東アジアの経済成長と中国の体制移行をともによく体現していると考えられる「中小企業」「産業集積」を切り口に，論じていく予定である。雇用の場，起業家の自己実現の場，市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として，中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。ただし，現在の中国では，中小企業の役割・性質は市場経済におけるそれにとどまらず，移行期に固有の役割や問題を含んでいる。そこでこの講義では，中国における中小企業の現状，政策と問題点について，主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。	1．中国経済の全般的な動向（1） 2．中国経済の全般的な動向（2） 3．中国経済の全般的な動向（3） 4．なぜ中小企業なのか？（1） 5．なぜ中小企業なのか？（2） 6．なぜ中小企業なのか？（3） 7．村の経済と企業（1） 8．村の経済と企業（2） 9．村の経済と企業（3） 10．産業のつながりと中小零細企業（1） 11．産業のつながりと中小零細企業（2） 12．産業のつながりと中小零細企業（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
駒形哲也『移行期・中国の中小企業論』税務経理協会，2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。	毎回の出席と学期末の試験の結果による。

	地域経済論ⅲｂ(中国)	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，その動向が，今や世界の経済に大きなインパクトをもたらすようになった中国経済を中心に論ずる。今年度は，通論的な地域経済論とは趣を変え，東アジアの経済成長と中国の体制移行をともによく体現していると考えられる「中小企業」「産業集積」を切り口に、論じていく予定である。春学期の講義をふまえつつ、中国における中小企業の現状､政策と問題点について、主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。 また貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方について考察する。新たな地域協力「東アジア共同体」構築にも関心を向けてもらいたい。	1．体制改革と「産業集積」（1） 2．体制改革と「産業集積」（2） 3．体制改革と「産業集積」（3） 4．中国の信用保険制度 5．中小企業発展の特徴 6．日・中経済関係（1） 7．日・中経済関係（2） 8．東アジア共同体（1） 9．東アジア共同体（2） 10．東アジア共同体（3） 11．世紀東アジアと中国経済（1） 12．２１世紀東アジアと中国経済（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
駒形哲哉『移行期・中国の中小企業論』税務経理協会、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。	毎回の出席と学期末の試験の結果による。

	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史 a)	担当者	Ｇ．Ｔ．ヨシカワ

講義目的、講義概要	授業計画
今日の世界は、グローバリゼーションという特徴をもつと同時に、また、国家内部の民族アイデンティティの確認という意味での部族主義を特徴としている。 このような世界情勢、および、ラテンアメリカにおける文化と今日の状況を理解するために、本講義では（1）スペインの歴史と民族的差異、（2）イベリア文化を形成する際のヨーロッパにおける他の民族と東洋の影響、（3）ヨーロッパにおける主要な文化運動、（4）コロンブス以前のアメリカにおける文化概念とを比較し、文化混交の結果としてのラテンアメリカにおける現状、といったことから分析を行なう。 受講資格 読むことを厭わず、また、スペイン語で会話することに積極的な学生が望まれる。	＊ オリエンテーション ＊ スペインの歴史：フェニキア人とギリシャ人 ＊ ローマ人と西ゴート族 ＊ スペインのアラブ人 ＊ ルネッサンスとビザンチン ＊ レコンキスタとムーア人追放 ＊ 冒険と植民地
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員が準備する活字文献とインターネット文献	授業における発言、セメスター半ばころに提出される記述レポート、セメスターの最後に課されるパワーポイントを使用したプレゼンテーションを総合的に評価する。

	地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史 b)	担当者	Ｇ．Ｔ．ヨシカワ

講義目的、講義概要	授業計画
今日の世界は、グローバリゼーションという特徴をもつと同時に、また、国家内部の民族アイデンティティの確認という意味での部族主義を特徴としている。 このような世界情勢、および、ラテンアメリカにおける文化と今日の状況を理解するために、本講義では（1）スペインの歴史と民族的差異、（2）イベリア文化を形成する際のヨーロッパにおける他の民族と東洋の影響、（3）ヨーロッパにおける主要な文化運動、（4）コロンブス以前のアメリカにおける文化概念とを比較し、文化混交の結果としてのラテンアメリカにおける現状、といったことから分析を行なう。 受講資格 読むことを厭わず、また、スペイン語で会話することに積極的な学生が望まれる。	＊ 宗教改革 ＊ 対抗宗教改革 ＊ アメリカ大陸におけるキリスト教 ＊ ラテンアメリカにおけるカトリック教会 ＊ プロテスタントと福音書派
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員が準備する活字文献とインターネット文献	授業における発言、セメスター半ばころに提出される記述レポート、セメスターの最後に課されるパワーポイントを使用したプレゼンテーションを総合的に評価する。

	地域社会文化論特殊講義（森林地域における風土と生活ａ）	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発態様を参考にして、人間と風土との関わりを地理学的視点から明らかにしていく。 熱帯雨林を取り上げ、熱帯林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を考察する。また、熱帯林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境ＮＧＯなどのこれまでに果たしてきた役割について考察する。	1. 本講義を受講するにあたっての心構えと、講義方法・講義内容についてのオリエンテーション 2. 一次生産者としての森林の重要性 3. 世界の森林・日本の森林－温量指数と乾燥指数 4. 熱帯林地域の自然環境の特質 5. 熱帯林の森林としての構造－熱帯雨林と季節林 6. マングローブ林の生態 7. 熱帯林の動植物と食物連鎖－生物学的多様性 8. 熱帯雨林の土壌 9. 熱帯雨林の生態と環境保全機能 10. 熱帯林の開発の過程と破壊の核心地域 11. 様々な開発形態と開発速度 12. 薪炭材の生産と伝統的な焼畑耕作
テキスト、参考文献	**評価方法**
クリス．C．パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会	定期試験等による

	地域社会文化論特殊講義（森林地域における風土と生活ｂ）	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発態様を参考にして、人間と風土との関わりを地理学的視点から明らかにしていく。 熱帯雨林を取り上げ、熱帯林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を考察する。また、熱帯林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境ＮＧＯなどのこれまでに果たしてきた役割について考察する。	1. 人口爆発と集落再編計画 2. 商業的木材生産による森林破壊 3. プランテーション経営と牧畜業 4. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊 5. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下 6. 熱帯雨林破壊による気候変化と地球の温暖化 7. 熱帯雨林破壊の経済・環境・文化の損失 8. 熱帯雨林における「森林の民」の苦境と、森林文化の崩壊 9. 熱帯林破壊をくい止める可能な解決策 10. 持続可能な森林利用－エコツーリズムの試み－。 11. 森林の民から学ぶべきこと－ＮＧＯの架け橋。 12. まとめ―再考：人間と自然のかかわり。
テキスト、参考文献	**評価方法**
クリス．C．パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会	定期試験等による

	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究 a)	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「ラテンアメリカ」という地域に関し、とくに政治・経済・社会・環境・開発といった社会科学的領域を中心に学んでいきたい。 まず春学期の前半では、ラテンアメリカをアンデス、カリブなどのいくつかのサブ地域に分け、そこにある国々や社会の特徴を捉えておきたい。 そして後半では、サブ地域間の差異にも留意しつつ、ラテンアメリカ全体に通じる政治・経済・社会の基本構図について学びたい。具体的な論点は右のとおりだが、これらは相互に密接に連関している。単なる知識の羅列でなく、ラテンアメリカ地域を総合的に理解するように努めていきたい。 （秋学期に続く）	Ⅰ．ラテンアメリカという地域とサブ地域 1.　ラテンアメリカと中南米 2.　アンデス地域の国と社会 3.　ラプラタ地域の国と社会 4.　ブラジル 5.　中米地域の国と社会 6.　カリブ地域の国と社会 Ⅱ．ラテンアメリカの政治と社会の基本構図 7.　植民地期の遺産と社会経済格差 8.　人種・民族と社会構造 9.　宗教と価値観・行動様式 10.　ラテン文化と政治的伝統 11.　都市・農村の二重経済構造と貧困問題 12.　社会階層と人間関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究 b)	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
（春学期からの続き） 秋学期の前半は、春学期に学んだこともふまえ、ラテンアメリカの政治の特徴と変化を時代順に学んでいきたい。右に掲げたテーマには聞き慣れない言葉もあるかもしれないが、これらの学問的分析枠組みを用いてラテンアメリカを見つめることで、この地域の歴史的歩みと時代的特徴、社会や文化の本質をより深く理解できることと思う。 そして秋学期後半には、ラテンアメリカを取り巻く国際関係について学び、経済の自由化や統合、民主主義の強化といった21世紀のラテンアメリカの課題についても考えていきたい。 ※できるだけ春・秋両学期を通じて履修してほしい。	Ⅲ．ラテンアメリカ政治の展開 1.　ポピュリズム 2.　権威主義体制 3.　軍の専門職業主義と政治介入 4.　民主体制への移行 5.　脆弱な民主主義 6.　ネオ･ポピュリズム Ⅳ．ラテンアメリカの国際関係 7.　ラテンアメリカ諸国の連帯感と対抗心 8.　西半球（米州）国際関係の構図 9.　米国の対ラテンアメリカ政策 10.　米州機構とラテンアメリカの安全保障 11.　経済自由化と地域統合 12.　民主主義支援のための地域協調体制
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	地域社会文化論特殊講義（東西文化を結ぶもの a）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，「西洋」の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，ひとつのトピックにほぼ３回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　A；キリスト教の広がりとアジア世界。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　C；十字軍・レコンキスタとその時代。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　D；２つの旅行記（マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ）と当時の世界。その１ 11　同　その２ 12　同　その３

テキスト、参考文献	評価方法
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	地域社会文化論特殊講義（東西文化を結ぶもの b）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，ひとつのトピックにほぼ３回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　E；大航海時代とその後。アジアと近代ヨーロッパの出会い。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　F；西アジアにおけるさまざまな近代化。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　G；帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　H；旧ソ連諸国や旧ユーゴースラビア諸国における民族・宗教意識。その１ 11　同　その２ 12　同　その３

テキスト、参考文献	評価方法
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	地域社会文化論特殊講義（英語圏のエスニックヒストリーａ）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
◆講義目的、講義概要 （前期）ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつづけたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究（多数派英国人側に視点を置いた英国史研究）の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。 1回から12回までの講義は下記テキストを使用して行う。13回以後はテキストはありません。尚、秋学期の三回分は講義形式でななくビデオの合評会形式で行う。 評価は前後期各1回の筆記試験とビデオの感想文（枚数不問）によって決定する。課題ビデオの選定は受講者の顔ぶれをみて決める。尚、出席をとるかとらないかも受講者の人数をみて決めたい。 ◆評価方法 筆記試験により評価を行う。	10. 儀式殺人告発の神話 11. 中世英国のユダヤ人社会 12. 諸侯・騎士・教会・都市とユダヤ人との関係 13. 中世英国ユダヤ人金融の潜在的機能とユダヤ人追放命令 14. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年 15. 千年王国思想とユダヤ人再入国 16. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 17. 英国人地主貴族社会への同化現象 18. ドイツ系ユダヤ移民の流入によって生じた貧民問題 10. 19 世紀末～20 世紀初め、移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 11. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 12. 現代英国ユダヤ人社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995年、講談社選書1600円）	

	地域社会文化論特殊講義（英語圏のエスニックヒストリーb）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
◆講義目的、講義概要 （後期）英国内にくらす代表的マイノリティーである黒人、インド・パキスタン系、アイルランド系の歴史と現状を探ることで、これまで見えてこなかった英国社会の特質を明らかにする。 尚、3回程、ビデオ作品の合評会形式の授業を行う。 ◆評価方法 筆記試験とビデオ合評会のプレゼンテーションによって評価を行う。	12. 映画で学ぶ英国ユダヤ人問題　「炎のランナー」を素材として1920年代の英国の大学を舞台とするユダヤ人・非ユダヤ人の関係を探る。 13. 映画で学ぶ英国黒人問題　「祖国と女王のために」を素材として1980年代英国における黒人問題を考える。 14. 映画で学ぶユダヤ人差別問題　「紳士協定」を素材としてユダヤ人差別のメカニズムを考える。 15. 現代英国の非白人集団、文化人類学的理解の枠組。 16. 在英黒人史、18世紀黒人サーヴアントと英国下層階級との交婚・結託。 17. 絵画史料の中にみられる黒人イメージ17～19世紀、その1絵画を中心に。 18. 絵画史料の中にみられる黒人イメージ17～19世紀、その2版画を中心に 19. 在英黒人史、法的地位をめぐる論争。 20. 西インド系黒人の英国定住。 21. 在英アイルランド人史　その1。 22. 在英アイルランド人史　その2。 12. 現代英国のパキスタン系について。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回講義レジメを配布	試験等による

	地域社会文化論特殊講義（アラブ文化・芸術 a）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム教は二つの潮流、つまりウラマー（イスラム法学者）に代表される律法主義とイスラム神秘主義から構成される。うち、英語でスーフィズム（Sufism）と呼ばれるイスラム神秘主義はアラブ、ペルシャ、トルコ 3 民族のイスラム文化・芸術に決定的な影響を及ぼした。 本講義はスーフィズムの理解を目指し、毎時間の講義は(1)コピーを配布する『Atlas of the Islamic World since 1500』（by Francis Robinson）の購読(2)神秘主義の連祷（ズィクル）はじめアラブ（イスラム）文化・芸術のビデオ紹介の２部構成とする。	1　（イントロダクション）イスラーム教預言者ムハンマドの生涯の解説など 2　テキストの購読。Part One「Revelation and Muslim History」The spread of Islam 622−1000 3　同上 The spread of Islam 622-1000 続 4　同上 The spread of Islam 622-1000 続 5　同上 The spread of Islam 622-1000 続 6　同上 The spread of Islam 622-1000 続 7　同上 The nomad　invasions 8　同上 The nomad　invasions 続 9　同上 The nomad　invasions 続 10　同上 The nomad　invasions 続 11　同上 The shaping of　Islamic life :the law 12　同上 The shaping of　Islamic life :the law 続

参考文献	評価方法
R.A ニコルソン著『イスラムの神秘主義』（平凡社、1996 年）	主にレポートによる

	地域社会文化論特殊講義（アラブ文化・芸術ｂ）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム教は二つの潮流、つまりウラマー（イスラム法学者）に代表される律法主義とイスラム神秘主義から構成される。うち、英語でスーフィズム（Sufism）と呼ばれるイスラム神秘主義はアラブ、ペルシャ、トルコ 3 民族のイスラム文化・芸術に決定的な影響を及ぼした。 本講義はスーフィズムの理解を目指し、毎時間の講義は(1)コピーを配布する『Atlas of the Islamic World since 1500』（by Francis Robinson）の購読(2)神秘主義の連祷（ズィクル）はじめアラブ（イスラム）文化・芸術のビデオ紹介の２部構成とする。	1　同上 The shaping of　Islamic life :the law 続 2　同上 The shaping of　Islamic life :the law 続 3　同上 The shaping of　Islamic life :the law 続 4　同上 The shaping of　Islamic life :the law 続 5　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 6　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 続 7　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 続 8　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 続 9　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 続 10　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 続 11　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 続 12　同上 The shaping of　Islamic life :mysticism 続

参考文献	評価方法
R.A ニコルソン著『イスラムの神秘主義』（平凡社、1996 年）	主にレポートによる

	地域社会文化論特殊講義（地中海世界の歴史 a）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講座は、副題に「地中海世界の歴史」と銘打ち、２１世紀の人間の文明の歴史の行方とその意味を問うべく、これまで大きな役割を果たしてきた地中海地域世界の歴史を宗教と文化を中心に総括し、諸文明の出会いの場、歴史の舞台としての地中海世界の意味を改めて考えることを目的とする。 ＜講義概要＞ 本年度は特に、「宗教と文化」に焦点を絞り、両者が密接不可分の関係にあったことを具体的に考察する。 講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることをが期待されている。その意味でも自由な発言が出るようなアト・ホームな雰囲気でこじんまりと進めていきたい。	１．はじめに （歴史を学ぶ意味、地中海世界への視点を提起する） ２．古代オリエントの宗教と文化（その１：メソポタミア） ３．古代オリエントの宗教と文化（その２：エジプト） ４．古代オリエントの宗教と文化（その３：イスラエル） ５．ギリシアの宗教と文化（その１：オリンポスの神々） ６．ギリシアの」宗教と文化（その２：エレウシスの秘儀） ７．ヘレニズムの宗教と文化（その１：シンクレティズム） ８．ヘレニズムの宗教と文化（その２：アレクサンドリアの宗教） ９．ローマ帝国の宗教と文化（その１：シリア） １０．ローマ帝国の宗教と文化（その２：ユダヤ教） １１．ローマ帝国の宗教と文化（その３：キリスト教の成立） １２．春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、参考文献を初回の授業時に「参考文献一覧表」として配布する。	学期末のレポートと数回の小報告に、出席点を加味して総合的に評価する。

	地域社会文化論特殊講義（地中海世界の歴史 b）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１．ローマ帝国下の諸宗教（その１：シリアの神々） ２．ローマ帝国下の諸宗教（その２：小アジアの神々） ３．ローマ帝国下の諸宗教（その３：イランの神々） ４．キリスト教の迫害 ５．キリスト教の発展（その１） ６．キリスト教の発展（その２） ７．キリスト教の発展（その３） ８．グノーシス主義（その１） ９．グノーシス主義（その２） １０．占星術の流行（その１） １１．占星術の流行‘(その２） １２．秋学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	比較文化論特殊講義（日中文化比較論 a）	担当者	易　友人

講義目的、講義概要	授業計画
◆講義目的 进入 21 世纪,全球化进一步发展,人们接近与交往的日益频繁,日本和中国比较任何一个时期或时代,都需要加深了解、沟通和增进信任。对这两个民族来说，排除情绪化因素，互相沟通了解和增加信任,恐怕比了解对方的 GNP 更为重要。 　对不同文化的比较研究,能够使人们开阔视野,更好地理解和尊重与自己完全异质的文化,同时能够对自身的文化有更深刻的了解。了解不同文化之间的共同性和差异性,不仅是解决日中之间存在问题的基本所在,更是避免冲突以使日中和平友好发展的前提之一。	◆授業計画 第 1 － 4 回　“四合院”与“榻榻米”。 第 5-7　回　中日育儿方式比较。 第 8-10 回　社会集团与代文化。 第 11-12 回　“红楼梦”与“源氏物语”的爱情主题。 (実際より内容が変化する場合もある)
テキスト、参考文献	**評価方法**
◆テキスト、文献：プリント使用、随時配布する	◆評価方法：出席、レポート、試験による

	比較文化論特殊講義（日中文化比較論 b）	担当者	易　友人

講義目的、講義概要	授業計画
◆講義目的 进入 21 世纪,全球化进一步发展,人们接近与交往的日益频繁,日本和中国比较任何一个时期或时代,都需要加深了解、沟通和增进信任。对这两个民族来说，排除情绪化因素，互相沟通了解和增加信任,恐怕比了解对方的 GNP 更为重要。 　对不同文化的比较研究,能够使人们开阔视野,更好地理解和尊重与自己完全异质的文化,同时能够对自身的文化有更深刻的了解。了解不同文化之间的共同性和差异性,不仅是解决日中之间存在问题的基本所在,更是避免冲突以使日中和平友好发展的前提之一。	◆授業計画 第　1　回　“红楼梦”与“源氏物语”的爱情主题。 第 2-4　回　传统的女性观与妇女的社会地位。 第　5-7 回　“义理人情”与“人情世故”。 第 8-10 回　“名”与“耻”。 第 11-12 回　日中称谓比较。 (実際より内容が変化する場合もある)
テキスト、参考文献	**評価方法**
◆テキスト、文献：プリント使用、随時配布する	◆評価方法：出席、レポート、試験による

	比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	担当者	田房　由起子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、「グローバリゼーション」と「ローカル文化」をキーワードにして、「異文化を比較すること」について理解を深めることである。 異文化を比較することによって見えてくるものは何か、「異文化を比較する」とはどのようなことか、さらに、文化を比較する際、それが「誰の視点から」行われているのか、といった問いについて考えたい。 また、近年、活発化している自民族中心的な動きとグローバル化が同時に起こる現象であることが注目されてきた。そこで、グローバル化／ローカル化の同時性に着目しながら「異文化を比較すること」について検討する。	1. オリエンテーション――異文化を比較するということ 2. 「われわれ」と「かれら」の境界 3. ローカルなものの生成とグローバリゼーション 4. 異文化を比較する(1) 5. 異文化を比較する(2) 6. 異文化を比較する(3) 7. 異文化を比較する(4) 8. 比較可能性と文化相対主義(1) 9. 比較可能性と文化相対主義(2) 10. 異文化の翻訳可能性について(1) 11. 異文化の翻訳可能性について(2) 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社 2002	出席、授業内レポート、試験による

	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	担当者	田房　由起子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、国際移動によって異文化の中で生活する人々の状況を紹介し、社会との関係から文化変容という現象について理解を深めることである。 「人の国際移動」には、移民や難民、留学、就学、国際結婚など、様々な形態がある。かれらは異文化にいかに「適応」している／していないのだろうか。また、かれらや受け入れ社会の人々はいかに文化変容する／しないのだろうか。本講義では、特に子どものおかれた教育状況について取り上げる予定である。その際、資料映像や記事などを使用し、履修者の理解を深められるよう努めたい。 なお、授業計画は進度や履修者の関心・希望により、変更する可能性がある。	1. オリエンテーション 2. グローバル社会における文化変容 3. 人が国際移動するということ 4. 移民の子ども――アメリカの場合(1) 5. 移民の子ども――アメリカの場合(2) 6. 外国人の子ども――日本の場合(1) 7. 外国人の子ども――日本の場合(2) 8. 外国人の子ども――日本の場合(3) 9. 移民の子ども――フランスの場合 10. 難民の子ども――日米在住のベトナム出身者(1) 11. 難民の子ども――日米在住のベトナム出身者(2) 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社 2002 宮島喬・太田晴雄編『外国人の子どもと日本の教育――不就学問題と多文化共生の課題』東京大学出版会 2005	出席、授業内レポート、試験による

	国際関係概論ａ	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「国際協力」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はＰＫＯ（平和維持活動）やＯＤＡ（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この 2 つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題の 1 つである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地域紛争と平和協力 1.　国連憲章と平和維持活動（ＰＫＯ） 2.　地域紛争の事例研究ａ：モザンビーク 3.　地域紛争の事例研究ｂ：エルサルバドル 4.　日本の国際平和協力法 Ⅱ．南北問題と開発協力 5.　開発戦略の変遷ａ：援助と貿易 6.　開発戦略の変遷ｂ：構造調整とガバナンス 7.　貧困と「人間開発」概念 8.　日本の政府開発援助（ＯＤＡ） Ⅲ．平和協力と開発協力の融合 9.　紛争終結後の社会荒廃 10.　人間の安全保障 11.　平和構築と復興支援の模索 12.　予防外交と予防開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	国際関係概論ｂ	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「南北問題」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1（約 12 億人）は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。例えば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。 本講義ではこうした具体的問題を学びながら現代国際政治の課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地球環境政治 1.　地球環境問題と南北対立 2.　貧困と環境破壊 3.　地球温暖化（気候変動枠組み条約） 4.　資源・エネルギーの枯渇 Ⅱ．南北問題の展開 5.　第三世界の独立と冷戦 6.　西側先進国の開発援助戦略 7.　石油危機と第三世界の結束 8.　第三世界内の格差拡大 Ⅲ．経済のグローバル化 9.　国際経済秩序（ブレトンウッズ体制） 10.　通貨制度と金融のグローバル化 11.　経済の自由化と貧困の増大 12.　ミレニアム開発目標
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	国際機構論 a	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、国際組織に対する法的視点を習得することを目的とする。 講義概要 本講義では、国際組織の国際法上の諸問題を取り上げて検討する。	1　イントロダクション 2　国際組織の概念と歴史 3　国際組織の設立と解散 4　国際組織の国際法上の地位 5　国際組織の国内法上の地位 6　国際組織と加盟国 7　国際組織間の連携・協力 8　国際組織と NGO（民間団体） 9　国際公務員 10　国際組織の意思決定 11　国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
家正治編『講義　国際組織入門』（不磨書房）	主として学期末に実施する試験と出席により評価する。

	国際機構論 b	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義の目的は、国際組織に対する法的視点を習得することを目的とする。 講義概要 本講義では、国際組織の様々な活動分野を取り上げ、当該分野毎に、国際組織が果たしている機能を概説したのち、その国際法上の意義について論ずる。	1　イントロダクション 2　紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 3　紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 4　安全保障に関わる国際組織（1） 5　安全保障に関わる国際組織（2） 6　安全保障に関わる国際組織（3） 7　軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8　人権・人道・難民問題に関わる国際組織 9　国際貿易・国際金融に関わる国際組織 10　開発援助と南北問題に関わる国際組織 11　労働、教育・文化、保健に関わる国際組織 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
家正治編『講義　国際組織入門』（不磨書房）	主として学期末に実施する試験と出席により評価する。

	地球環境論 a（地理学）	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。	1.　オリエンテーション－地理学とは 2.　環境の諸要素(1) 気候環境 3.　環境の諸要素(2)緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4.　環境の諸要素(3) 植生 5.　熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 6.　熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 7.　熱帯地域(3)熱帯林の保全 8.　沙漠地域(1)　自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9.　沙漠地域(2)　石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 亜寒帯森林地域(1)タイガの中の生活 11. 亜寒帯森林地域(2)タイガの開発と保全 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著『自然環境と文化－改訂版』原書房	定期試験等

	地球環境論 b（地理学）	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地形環境を概観し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し、自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。	1．環境の諸要素－地形環境 2．山地地域(1)　山地の自然環境 3．山地地域(2)　高度帯の利用と伝統的生業 4．山地地域(3)　山地資源の開発と観光化 5．地中海森林地域の特性 6．地中海地域の生活様式－西欧文化の原点 7．温帯草原地域の自然特性 8．温帯草原地域の開発と環境問題 9．温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 世界の環境問題－自然生態系と社会生態系の概念 12. まとめ　自然環境の保全と保護
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著『自然環境と文化－改訂版』原書房	定期試験等

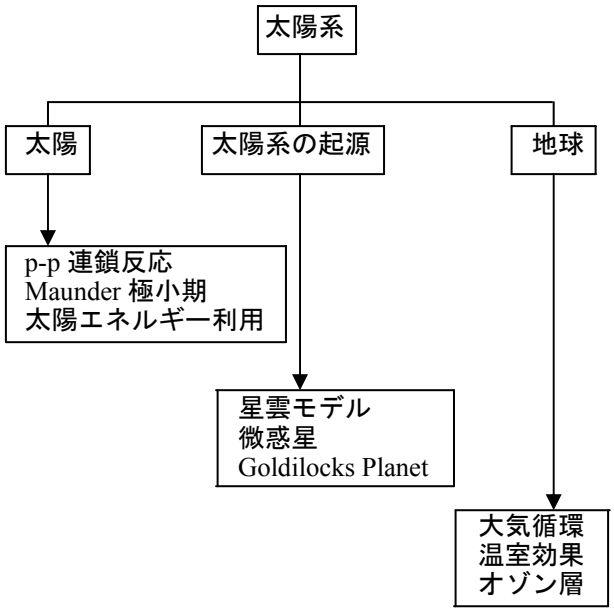
	地球環境論 a（植物学）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。 **講義概要** ヒトの活動が大きく地球環境を改変してきたが、その様子を知るために、主として北半球各地の環境の異同を身近な植物や動物を例に説明する。	次の内容の講義を数回ずつ行う。 1　エコシステムとは 2　世界の気候帯 3　植生と文化 4　世界遺産条約
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。廉価な本は各自必ず購入すること。	出席状況、随時提出してもらうレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

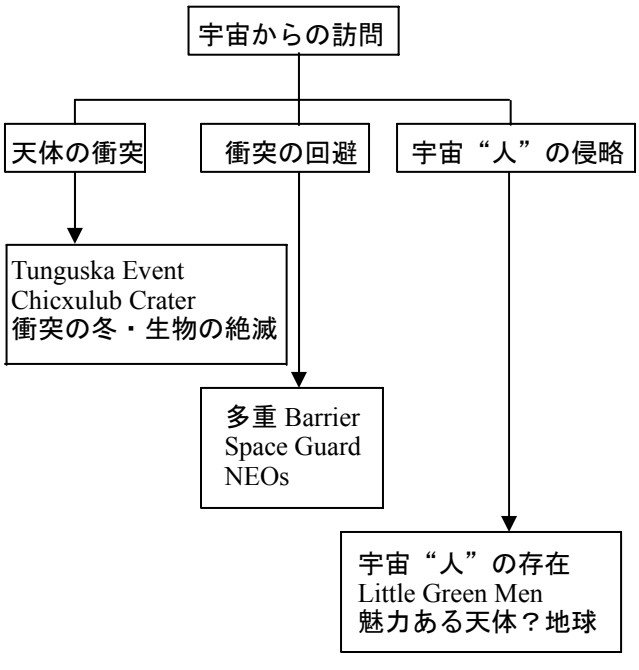
	地球環境論　b （植物学）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 地球規模で自然をどのように守るために我々はどうすべきかを考える。 **講義概要** 　日々のニュースの中から、保護に関する出来事を紹介しつつ、学生諸君にも考えてもらう。	次の内容の講義を数回ずつ行う。 1　自然保護運動 2　ワシントン条約 3　ラムサール条約 4　国立公園
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。廉価な本は各自必ず購入すること。	出席状況、随時提出してもらうレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

	地球環境論　a　（太陽系）	担当者	福井　尚生

講義目的	講義概要
✿我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。他の惑星とは異なり、地球上では諸環境のお蔭で生物が誕生（？）・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の**起源**を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ✿『地球環境論 a』（太陽系）で、このお蔭の内容を知り、**地球を率先して愛おしみ慈しむ意識**が少しでも湧いて来ればと思います。 ✿視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ✿関連する内容の英文も時折読みます。 ✿主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で先を考え、勇気をもって**実行**して下さい。実行してこそ環境論を学んだ意味が活かされます。 ✿同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
✿（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『現代天文学要説』内海和彦、田辺健茲、吉岡一男　著・朝倉書店）	✿主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（宿題・Quiz）の中身**です。

	地球環境論　b　（太陽系）	担当者	福井　尚生

講義目的	講義概要
✷『地球環境論 b』は、上記『地球環境論 a』の知識を前提に「宇宙からの訪問」を学びます。 ✷地球も宇宙を司る自然法則に支配されています。宇宙で起こっていることは地球にも起こります。月には沢山の Craters があります、小天体**衝突**の名残です。地球にも Craters が発見されています。地球も宇宙からの訪問を受けているのです。**地球を守ることの意味**を考えます。 ✷視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ✷関連する内容の英文も時折読みます。 ✷主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で先を考え、勇気をもって**実行**して下さい。実行してこそ環境論を学んだ意味が活かされます。 ✷同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
✷（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『小惑星衝突』日本スペースガード協会　著、Newton Press）	✷主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（宿題・Quiz）の中身**です。

	都市・地域計画論 a	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、人間の生活および諸活動の場である都市および農村もしくは地域に関わる現象、課題、施策について、日本やヨーロッパの例を取り上げながら学び、都市や地域について考える視点と知識をつけることを目的とする。 講義は、都市や地域に関して多様な視点から問題を提起し、それをめぐる既往の研究や議論に言及しながら進めてゆく。	1　都市の概念 2　団体としての都市 3　団体としての都市（続） 4　団体としての都市（続） 5　団体としての都市（続） 6　団体としての都市（続） 7　小括 8　都市と人口(続) 9　都市と人口(続) 10　都市と人口（続） 11　都市の構造（続） 12　都市の構造（続） 以上の計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。参考文献は授業の中で紹介する。	中間および期末の試験によって評価する。

	都市・地域計画論 b	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、人間の生活および諸活動の場である都市および農村もしくは地域に関わる現象、課題、施策について、日本やヨーロッパの例を取り上げながら学び、都市や地域について考える視点と知識をつけることを目的とする。 講義は、都市や地域に関して多様な視点から問題を提起し、それをめぐる既往の研究や議論に言及しながら進めてゆく。	1　地域の構造 2　地域の構造（続） 3　都市の賑わいと再生 4　都市の賑わいと再生（続） 5　都市の賑わいと再生（続） 6　都市の賑わいと再生（続） 7　小括 8　都市の景観とイメージ 9　都市の景観とイメージ（続） 10　都市の景観とイメージ(続) 11　都市の景観とイメージ（続） 12　まとめ 以上の計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。参考文献は授業の中で紹介する。	中間および期末の試験によって評価する。

	国際経済論 a	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 経済開発論の総論部分である。経済開発論の学問的位置づけ、統計で見た発展途上国の現状・定義・分類ならびに経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。	1．経済開発論をなぜ学ぶか／授業の進め方／参考文献・統計資料の紹介 2．経済開発論の学問的位置づけ／理論・政策・戦略／成長と発展 3．経済開発論と価値観・世界観／経済成長は望ましいか 4．発展途上国の定義と分類 5．人間開発指標(HDI)とセンの思想 6．国連ミレニアム開発目標(MDGs)と達成目標 7．経済成長と所得分配 8．人口の増加・都市化問題 9．全要素生産性と社会・文化的諸条件 10. 教育と開発 11. 参加型開発と女性 12. ガバナンスと経済発展 13. 地球環境問題と持続的成長
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

	国際経済論 b	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 経済開発論の各論部分である。まず経済発展の理論、開発政策・戦略の概略を説明し、つぎに農業・農村開発、工業化、国際貿易、外国直接投資流入、債務問題、国際援助等が途上国経済開発に与えるさまざまな影響を明らかにする。	1．経済発展のモデル(古典派、K. マルクス、ハロッド＝ドマー理論、ロストウ、ガーシェンクロン、シュンペーター、新古典派、チェネリー、従属理論、E.F.シューマッハー、新自由主義、新混合経済主義) 2．農業・農村開発の重要性(植民地経済とモノカルチャー、農地改革、農業開発と農村開発) 3．工業化と開発戦略(均整成長論とﾋﾞｯｸﾞﾌﾟｯｼｭ、不均整成長論と連関効果) 4．国際貿易と開発(重商主義とアダム・スミス、比較生産費の原理、プレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論、新国際経済秩序、輸入代替工業化、輸出促進工業化、関税と為替レート、地域経済統合の進展) 5．多国籍企業と発展途上国(直接投資理論、多国籍企業と途上国経済) 6．国際収支と途上国債務問題(国際収支構造と経済発展、累積債務問題、世銀／IMF批判、債務＝環境スワップ) 7．国際援助と開発(国際政治の潮流と第三世界、国際援助の現状、人間の基本的ニーズ、構造調整融資、草の根援助とNGO、国際援助の展望)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

	国際政治論 a	担当者	星野　昭吉

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、安全保障や核拡散問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済問題、文化、環境問題などと関係づけて検討する。また、そのために必要な国際政治学の主要な概念や理論についても見ていく。	1 国際政治学の基本的課題－グローバル政治の構造－ 2 国際政治の構造的変動－冷戦構造崩壊の意味－ 3 現代国際政治の新しい枠組み－湾岸危機･戦争－（1） 4 現代国際政治の新しい枠組み－湾岸危機･戦争－（2） 5 現代国際政治の新しい枠組み－ソ連邦の崩壊－（1） 6 現代国際政治の新しい枠組み－ソ連邦の崩壊－（2） 7 グローバル政治の形成と意義 8 世界政治と安全保障 9 世界政治と経済 10 世界政治と文化 11 世界政治とナショナリズム 12 世界政治と環境問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
星野昭吉『世界政治の原理と変動 ―世界的規模の問題群とその解決 ―』同文舘（テキスト）	試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。

	国際政治論 b	担当者	星野　昭吉

講義目的、講義概要	授業計画
我々の日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際関係の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性などの検討が要求されている。そこで、そうした国際政治の現実は理論と密接な相互構成関係を形成しているところから、まず、現実と理論との関連の枠組みを明らかにする。その上で、具体的な世界政治の現実としての秩序、権力、経済、規範、イメージ、科学技術を通して、現実と理論との有機的関連性を検討していく。	1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論 2 事例－戦後の日米関係の展開過程－（1） 3 事例－戦後の日米関係の展開過程－（2） 4 事例－戦後の日米関係の展開過程－（3） 5 世界政治における秩序－（1） 6 世界政治における秩序－（2） 7 世界政治における権力－（1） 8 世界政治における権力－（2） 9 世界政治と世界経済 10 世界政治における規範 11 世界政治とイメージ 12 世界と科学技術革命
テキスト、参考文献	**評価方法**
星野昭吉『世界政治の理論と現実』（アジア大学購部ブックセンター）	試験、レポート、出欠状況による総合評価。

	国際交流特殊講義（蘭学を学んだ人たち a）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・ 鉄砲の伝来以来、日本は直接あるいは間接にヨーロッパと様々な交流をおこなってきたが、特に自然科学の分野でそのことがどのような影響をもたらしたかを知ることを目的とする。 ・ **履修資格** ・ 日本史・世界史に関心があること。 ・ 資料の多くは外国語であるので、辞書をひくことが苦でないこと。 （最初の講義で試験を行なう）。	以下の項目をそれぞれ数回ずつかけて説明し、その資料を読んでいただきます。 1　国際交流とは 2　マルコポーロの『東方見聞録』より前に唐の様子を伝えた本 3　『東方見聞録』に日本はどう出ているか、 4　キリスト教の伝播と植民地主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。廉価な本は各自必ず購入すること。	出席状況、随時提出してもらうレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。

	国際交流特殊講義（蘭学を学んだ人たち b）	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・ 江戸時代、知識階級に限られたが、オランダ語に精通した人たちがいた。彼らはオランダ語を通して何を学んだのかを、幾人かを例にして勉強する。 ・ **履修資格** ・ 日本史・世界史に関心があること。 ・ 資料の多くは外国語であるので、辞書をひくことが苦でないこと。 （最初の講義で試験を行なう）。	以下の項目をそれぞれ数回ずつかけて説明し、その資料を読んでいただきます。 1　ドイツ人ケンペル 2　スエーデン人ツュンベリー 3　文化・文政時代 4　ドイツ人シーボルト
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。廉価な本は各自必ず購入すること。	出席状況、随時提出してもらうレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。

	卒業論文	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
言語文化学科では，卒業論文は必修科目ではないが，学生諸君にはできるだけ履修し，論文を書き上げて提出することを勧めている。 なぜなら卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは，物事を論理的に考える姿勢と課題を設定し解答をさぐる能力を養成することになるからである。 しかし，諸君の中にはこれを安易にとらえているむきもしばしば見受けられる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備と作業で書き上げられるものではない。担当教員と十分に議論を重ねるとともに指導を受けて，早い時期から取り組む必要がある。 諸君の努力に期待する。	卒業論文提出予定者に対しては，4月と10月にガイダンスを開催する予定なので，必ず参加すること。 普段の指導は，各担当教員の指示に従うこと。 提出には，PCの使用が求められる。印刷した論文とデジタルデータを提出すること。 提出期限を厳守すること。そのために周到な計画を立てる必要がある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示による	学科の申し合わせによる

	卒業論文	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照	春学期参照
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期参照	春学期参照

2006年度

外国語学部共通科目シラバス

（2003年度以降入学生用）

【2002年度以前入学生用】の外国語学部共通科目は

『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています

学則別表 （2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目 （2003年度以降入学生用）

※ほとんどの科目はオンライン抽選が行われます。
各学科の「授業時間割表」で抽選方法や定員などを確認してください。

目次

時間割コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
07690	総合講座	青山　愛香	春	水3	2	1	経・法	1
07691	総合講座	木村　佐千子	秋	水3	2	1	経・法	1
00220	情報科学概論a	呉　浩東	春	金1	2	1	経・法	2
00221	情報科学概論b	呉　浩東	秋	金1	2	1	経・法	2
	情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	経・法	3
00138		長崎　等	春	月1				
00058		金子　憲一	春	月4				
00068		金子　憲一	春	月5				
00074		田中　雅英	春	火1				
00093		田中　雅英	春	火2				
00208		内田　俊郎	春	木4				
00253		松山　恵美子	春	金2				
	情報科学各論(初級―表計算入門)	各担当教員			2	1	経・法	4
00044		金子　憲一	春	月3				
00109		田中　雅英	春	火3				
09040		二宮　哲	春	水1				
00184		内田　俊郎	春	木2				
00255		松山　恵美子	春	金3				
00141		長崎　等	秋	月1				
00070		金子　憲一	秋	月5				
00076		田中　雅英	秋	火1				
00019		呉　浩東	秋	水2				
00193		内田　俊郎	秋	木2				
09037		内田　俊郎	秋	木3				
00231		松山　恵美子	秋	金2				
00201	情報科学各論（初級―プレゼンテーション）	金井　満	春	火2	2	1	経・法	5
00202	情報科学各論（初級―プレゼンテーション）	金井　満	秋	火2	2	1	経・法	5
	情報科学各論(初級―HTML入門)	各担当教員			2	1	経・法	6
00021		呉　浩東	春	水2				
00195		内田　俊郎	春	木3				
00060		金子　憲一	秋	月4				
00096		田中　雅英	秋	火2				
00131		二宮　哲	秋	水1				
00210		内田　俊郎	秋	木4				
00239	情報科学各論(中級―表計算応用1)	松山　恵美子	秋	金3	2	1	経・法	7
09305	情報科学各論(中級―表計算応用1)	松山　恵美子	春	金4	2	1	経・法	7
09308	情報科学各論(中級―表計算応用2)	松山　恵美子	秋	金4	2	1	経・法	8
00048	情報科学各論(中級―HTML応用1)	金子　憲一	秋	月3	2	1		9
00111	情報科学各論(中級―HTML応用1)	田中　雅英	秋	火3	2	1		10
00156	情報科学各論(中級―データベース1)	長崎　等	春	月2	2	1		11
00158	情報科学各論(中級―データベース2)	長崎　等	秋	月2	2	1		11
00172	情報科学各論(中級―プログラミング論1)	呉　浩東	春	月2	2	2	言	12
00191	情報科学各論(中級―プログラミング論2)	呉　浩東	秋	月2	2	2	言	12
00087	経済原論a	野村　容康	春	火1	2	1	経・法	13
00088	経済原論b	野村　容康	秋	火1	2	1	経・法	13
00055	社会心理学a	田口　雅徳	春	火4	2	1		14
00056	社会心理学b	田口　雅徳	秋	火4	2	1		14

03 年度以降	総合講座	担当者	青山　愛香 （コーディネータ）

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、「都市と藝術」と題して、ヨーロッパならびにアジアを代表する都市と、その都市を中心に展開した藝術について考察します。 9 名の講師がオムニバス形式で、幅広い時代の芸術作品を紹介します。	1　青山愛香（本学専任講師）　はじめに 2　青山愛香「ニュルンベルク」 3　諏訪功　（一橋大学名誉教授）「ウィーン①」 4　増谷英樹（本学特任教授）「ウィーン②」 5　加藤磨珠枝（東京藝術大学非常勤講師）「ローマ」 6　K. O. バイスヴェンガー（本学助教授）「ドレスデン①」 7　酒井府　（本学名誉教授）「ミュンヘン①」 8　片山まび（大阪市立東洋陶磁美術館）「東アジアの都市」 9　I. アルブレヒト（本学教授）「ドナウ河流域の都市」 10　酒井府　「ミュンヘン②」 11　佐藤直樹（国立西洋美術館主任研究官）「ドレスデン②」 12　青山愛香　まとめ ※　講師の都合により日程に変更がある場合があります
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する。	学期末試験に平常点を加味した総合評価

03 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子 （コーディネータ）

講義目的、講義概要	授業計画
－ヨーロッパの都市や地域と音楽－ この総合講座では、各回に１つのヨーロッパの都市や地域に焦点をあて、その都市や地域の概容を知っていただくと同時に、その地にまつわる音楽に親しんでいただきたいと思います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の担当者が、とりあげる都市や地域とその地にまつわる音楽について、映像資料や録音資料、生演奏を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、都市論が中心になったり、文学や民俗に重点が置かれたり、音楽史的なことを中心にお話ししたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。 注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。	1　本学ドイツ語学科専任講師　木村佐千子　「ヴェネツィア」 2　ヴァイオリン奏者（本学卒業生）　樋口ゆみ 「ヨーロッパのヴァイオリン音楽」（お話と演奏） （小講堂で実施する予定） 3　木村佐千子　「ヴィーン」 4　本学ドイツ語学科助教授　Kirsten Beißwenger 「ドレスデン」 5　本学ドイツ語学科教授　渡部重美　「ヴァイマル」 6　渡部重美　「ベルリン」 7　本学フランス語学科非常勤講師　松橋麻利　「パリ」 8　本学ドイツ語学科教授　下川浩 「デュッセルドルフとハンブルク ～ハイネ＝シューマン没後 150 年に寄せて」 9　木村佐千子　「スペイン」 10　東京藝術大学名誉教授　角倉一朗　「ライプツィヒ」 11　東京音楽大学教授　岡田敦子 「ペテルブルク～ロシアにおける西洋音楽の導入と、 西洋音楽のロシア化」（お話とピアノ演奏） （小講堂で実施する予定） 12　木村佐千子「ロンドン」 ※各回のタイトルは、大雑把な内容をお伝えするための仮のものです。 ※内容や担当者は変更となる場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。各回の終わりに意見・感想を記してもらいます。

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。 本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。	1　講義の概要と目標 2　情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3　コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論 4　数の体系と基数変換 ２進数と１６進数、基数変換、2 進数の演算 5　コンピュータの論理回路とデータ表現 6　コンピュータの構成要素（1） 中央処理装置（CPU）とメインメモリ 7　コンピュータの構成要素（2） ２次記憶装置と周辺措置 8　コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9　オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 10　コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11　基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12　アルゴリズム
テキスト、参考文献	**評価方法**
山田啓一　『情報科学』　西日本法規出版	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

03 年度以降	情報科学概論 b	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。 本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。	1　ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2　データベース データベースの概要、データベースの種類 3　データベース管理システム（DBMS） DBMS の目的と構成 4　データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5　コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LAN の構成とアクセス方式 6　インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS 7　インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8　インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9　マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10　情報検索 情報検索の方法と演習 11　言語処理における情報技術（演習） 12　ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守
テキスト、参考文献	**評価方法**
山田啓一　『情報科学』　西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

03 年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人で１台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。 情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかをすでに履修ずみの場合は、本科目を履修してはならない。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作 2　ウィンドウズ入門―ウィンドウ操作とアプリケーション 3　日本語入力とタイピング 4　インターネット―ブラウザ･メール･検索 5　情報倫理 6　ワードプロセッサとは 7　文書の作成（1） 8　文書の作成（2） 9　文書の作成（3） 10　文書への画像の挿入 11　レポートの作成 12　総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ｉ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用（1） 7 関数の利用（2） 8 関数の利用（3） 9 プレゼンテーション（1）―作成（MS-POWERPOINT とは） 10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ） 11 プレゼンテーション（3）―発表 12 総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用（1） 7 関数の利用（2） 8 関数の利用（3） 9 プレゼンテーション（1）―作成（MS-POWERPOINT とは） 10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ） 11 プレゼンテーション（3）―発表 12 総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。 ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作１ 3. Powerpoint の基本操作２ 4. Powerpoint の基本操作３ 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示します。	授業内での個人プレゼンテーション。

03 年度以降	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。 ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作１ 3. Powerpoint の基本操作２ 4. Powerpoint の基本操作３ 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示します。	授業内での個人プレゼンテーション。

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2　WWW と LAN 3　情報の単位と情報通信 4　ハイパーテキストと HTML 5　インターネットと情報倫理 6　ページの構造と HTML 7　ホームページの作成–テキスト 8　ホームページの作成–イメージ 9　ホームページの作成–リンク 10　ホームページの作成–テーブル・その他 11　ホームページの作成–完成 12　ファイルの転送とページの更新
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2　WWW と LAN 3　情報の単位と情報通信 4　ハイパーテキストと HTML 5　インターネットと情報倫理 6　ページの構造と HTML 7　ホームページの作成–テキスト 8　ホームページの作成–イメージ 9　ホームページの作成–リンク 10　ホームページの作成–テーブル・その他 11　ホームページの作成–完成 12　ファイルの転送とページの更新
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年度以降	情報科学各論（中級―表計算応用１）	担当者	松山恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。 Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を繰り返す必要がある場合、その処理内容を記録させることで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。 簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA（Visual Basic for Application）プログラムの基礎を理解することを目標とする。 初回の授業に、必ず出席すること。	1　ガイダンスと Excel の復習 2　マクロ機能とは 3　関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4　関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5　マクロ用ボタンとマクロの連携 6　第１回目課題作成 7　VBA の利用―簡単なゲームの作成（1） 8　VBA の利用―簡単なゲームの作成（2） 9　第２回目課題作成 10　最終課題作成（1） 11　最終課題作成（2） 12　最終課題作成（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で指示する。	平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。

03 年度以降	情報科学各論（中級―表計算応用１）	担当者	松山恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様。	春学期と同様。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同様。	春学期と同様。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降	情報科学各論（中級―表計算応用２）	担当者	松山恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は情報科学各論（中級―表計算応用１）の単位を取得した学生を対象として行うものとする。 情報科学各論（中級―表計算応用１）で学習した記録マクロから、VBA（Visual Basic for Application）をもう一歩踏み込んで理解することを目的とする。 最終的には、情報科学各論（中級―表計算応用１）で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。 初回の授業に、必ず出席すること。	1　ガイダンスと Excel マクロ機能の復習 2　VBA とは（1） 3　プログラミングの技法（1） 4　プログラミングの技法（2） 5　マクロ用ボタンとの連携 6　第１回目課題作成 7　プログラミングの技法（3） 8　プログラミングの技法（4） 9　第２回目課題作成 13　最終課題作成（1） 14　最終課題作成（2） 12　最終課題作成（3）

テキスト、参考文献	評価方法
第１回目の授業で指示する。	平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML 応用１）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 講義の概要 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（１） 3　HTML と FTP の復習（２） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　JavaScript（１） 6　JavaScript（２） 7　JavaScript（３） 8　JavaScript（４） 9　CGI の利用（１） 10　CGI の利用（２） 11　CGI の利用（３） 12　鑑賞・報告会

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に指示、紹介する。プリントの配布（Web 上も含む）も行う。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に，単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく，CGI や JavaScript にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目標とするのではなく，その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め，それの積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には，一方向の情報発信ではなく，インタラクティブな双方向のコミニュケーションを図ることにより，情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。 なお，この授業計画はあくまで一つの目安であり，途中での変更も十分にありえる。	1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. プログラミングの考え方 4. JavaScript1 5. JavaScript2 6. JavaScript3 7. JavaScript4 8. CGI 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に適宜指示する。	授業中に指示する課題と平常点で評価する。

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎　等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する. 高度情報化社会といわれる現代においては，昔と違い膨大な量の情報がうずまいている．そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である．その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある. データベースの基本的な考え方や利用の仕方について，比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い，学習するのが本講義の目的である. ＜受講者への要望＞ 情報科学各論（初級－表計算入門） を既修，またはそれと同等程度の知識があることが望ましい. 第 1 回目の授業には必ず出席すること. 遅刻は厳禁とします． また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること.	1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 表計算の復習（1） 3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
1 回目の授業で指示します.	出席及びレポート課題， さらに実習試験によって評価します.

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎　等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する. Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に， データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう． そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める. ＜受講者への要望＞ 情報科学各論（中級） 「データベース 1」を既修， またはそれと同等程度の知識があることが望ましい． 第 1 回目の授業には必ず出席すること． 遅刻は厳禁とします. またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること.	1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリ（1） 6 クエリ（2 ） 7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析） 8 テーブル設計 2 （関係データ分析） 9 テーブル設計 3 （テーブル作成） 10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計） 11 クエリ設計 1 （クエリの作成） 12 プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
『30H で理解できるアクセス 2003』， 実教出版 『図解雑学データベース』，ナツメ出版	出席及びレポート課題によって評価します.

03 年度以降	情報科学各論(中級－プログラミング論 1)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行う。	1　授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2　プログラミング言語の発展史 3　開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4　Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5　簡単なプログラムの作成 基本なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6　イベント駆動型プログラム 7　文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8　選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9　選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10　繰り返しあるプログラムの作成（1） 回数指定による繰り返し、For～Next 文 11　繰り返しあるプログラムの作成（2） 条件指定による繰り返し 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）最初の講義で指示する。 （2）随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

03 年度以降	情報科学各論(中級－プログラミング論 2)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。 ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。	1　プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2　配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3　文字列の処理プログラム（1） 簡単な翻訳プログラムの作成 4　文字列の処理プログラム（2） 文字列の照合と置き換え 5　図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6　文字列の表示 7　画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8　ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9　ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 10　応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11　再帰というプログラミング手法 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

03 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　不完全競争の理論 ９．　市場の理論① １０．　市場の理論② １１．　厚生経済学の基本定理 １２．　市場の失敗
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として試験の成績で評価する。 出席を考慮する場合もある。

03 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　IS-LM 分析 ９．　インフレとデフレ １０．　財政赤字と日本経済 １１．　開放マクロ経済 １２．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として試験の成績で評価する。 出席を考慮する場合もある。

03 年度以降	社会心理学 a	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
個人の行動や認知過程は少なからず，個人をとりまく他者，環境，文化などに影響される。社会心理学は，こうした社会に生きる個人の認知や行動を研究する学問分野といえる。本講義では，近年の社会心理学の研究動向を踏まえながら，１．他者認知，２．自己認知，３．自己呈示と自己開示，４．社会的行動と集団の影響，５．対人コミュニケーションなどのテーマについて論じていきたい。	1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 他者認知：印象形成 4. 他者認知：印象の記憶 5. 他者認知：性格の認知 6. 他者認知：第１印象の影響力 7. 自己認知：自己意識 8. 自己認知：自覚理論と没個性化 9. 自己認知：自己知識 10. 自己認知：自己評価 11. 自己認知：他者理解と自己理解 12. まとめ
テキスト、参考文献	
テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。	出席と授業での発表，試験により総合的に評価する

03 年度以降	社会心理学 b	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的と概要は春学期を参照のこと。	1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 対人魅力① 3. 対人魅力② 4. 自己呈示と魅力 5. 対人援助① 6. 対人援助② 7. 他者への攻撃① 8. 他者への攻撃② 9. コミュニケーションの心理① 10. コミュニケーションの心理② 11. コミュニケーションの心理③ 12. コミュニケーションの心理④
テキスト、参考文献	
テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。	出席と授業での発表，試験により総合的に評価する

シラバス 言語文化学科

2006年 4 月 1 日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1
電　話　048-946-1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。

DOKKYO UNIVERSITY